令和８年度全国学力・学習状況調査
調査結果等について

令和８年８月19日

文部科学省　総合教育政策局
参事官（調査企画担当）付　学力調査室

目　次

1　調査結果の活用や取扱いについて　・・・　3

2　令和８年度質問調査結果の概要について　・・・　10

3　令和９年度以降の調査実施について　・・・　34

1 調査結果の活用や取扱いについて

令和８年度全国学力・学習状況調査の概要

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る

学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

調 査 概 要

調査実施日	令和８年４月20日(月)～５月29日(金)
調査対象	小学校６年生、中学校３年生
調査事項	①児童生徒：教科調査〔国語、算数･数学、**英語（中学校のみ）**〕 / 質問調査 **※令和５年度以来の実施** ②学　　校：質問調査
調査問題	・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信
今年度の調査の特徴	・中学校・英語（４技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」）の全面CBT（Computer Based Testing）化 ※「話すこと」調査のみ令和５年度もCBTで実施 ・小学校・児童質問でのランダム方式の導入

結果公表スケジュール

結果公表①【7/16】
（正答率・IRT バンド分布などの全国平均）

結果公表②【8/3】
（全国データに基づく分析結果）

結果公表③【9/30】
（都道府県・指定都市別データに基づく分析結果）

全国（国公私）の平均正答数（率）・平均IRTスコア

※中学校英語はCBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき、500を基準に算出したIRTスコアで結果を表示。IRTスコアは、「聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと」の英語４技能を統合したもので、「話すこと」の当日実施校500校分のデータに基づいて全国値を算出。各学校には、「聞くこと・読むこと・書くこと」の３技能を統合したIRTスコアを返却。

小学校				中学校						
国語		算数		国語		数学		英語４技能		（参考）英語３技能
7.9/13 問 (61.1%)		9.1/16 問 (56.6%)		9.6/15 問 (64.2%)		9.2/16 問 (57.4%)		499		502
男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	―
57.7%	65.2%	58.3%	55.5%	60.7%	68.6%	57.0%	58.9%	490	510	

○ 令和７年度から、国による結果公表を３段階に分けて実施。
○ 児童生徒の学びへの還元を最優先に、
- 学校への結果返却時期を前倒し（公表①）
- 全国データに基づく分析結果をより効果的に発信、都道府県・指定都市の主体的な分析期間を確保（公表②）
- 全国データや都道府県・指定都市別データを多面的に分析（公表③※）

※ 都道府県・指定都市別の結果公表の在り方
○ 本調査の目的を達成する観点から、学びの改善につながる各種データを正確かつ効果的に公表し、調査実施主体として国が説明責任を果たす。
○ 引き続き都道府県・指定都市の単位で平均正答率・スコアを含む結果公表を行いつつ、多面的な調査結果を示し方に改善する。

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果公表②及び調査結果の活用や取扱いについて

（令和８年８月３日付け８文科教第８３０号　総合教育政策局長通知（抜粋））

２．令和８年度調査結果の活用及び取扱いについて

(1) 調査結果の活用

各教育委員会・学校等においては、令和８年度調査実施要領７．（５）に基づき、調査結果を十分活用して、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること。また、学校における学習指導の充実や学習状況の改善に役立てること。

なお、調査結果の分析に当たっては、**教科調査の平均正答数、平均正答率、平均IRTスコアのみならず、個々の問題や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析したり、学習指導要領の趣旨を踏まえた取組、ICT機器の活用、教科に関する意識や学習活動等に係る質問調査の結果と合わせて総合的に分析、評価したりすることを通じて、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることが重要**であること。

(2) 調査結果の取扱いに関する留意事項

調査結果の取扱いについては、令和８年度調査実施要領７．と「令和８年度全国学力・学習状況調査における結果の提供及び公表日等について」（令和８年６月10日付け事務連絡)に基づき、適切に行うこと。

特に、調査結果の公表に関しては、教育委員会や学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である一方、調査により測定できるのは学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえ、**序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮**すること。

３．調査結果を踏まえた教育委員会における取組の推進について

各教育委員会においては、調査結果の分析・検証の結果を踏まえ、それぞれの役割と責任に応じて、改善計画等の作成を行うことなどにより、域内の教育や教育施策の改善に向けて総合的かつ計画的な取組を進めること。

具体的には、次の事項について取り組むことが考えられること。

①調査結果において課題の見られた点を中心に、各学校における教職員の指導力の向上、指導内容や指導方法等の改善を図るための研修等を適切に実施すること。その際、今回、IRTに基づいて示した中学校英語の結果に関する資料（IRTバンドの分布、G-P分析図（Good-Poor Analysis）等）を含め、別添２に示した各種資料等も積極的に活用すること。また、**調査結果の分析・検証の結果については、教育委員会全体で共有し、小・中・高等学校全体を通じて資質・能力を育成するため、調査実施学年以外の学年や調査実施教科以外の教科等の指導改善等にも活用**すること。

②学校における具体的な改善の計画や取組に対し、**学校の状況に応じて、必要な指導、助言や支援等**を行うとともに、**首長部局等と連携を図り、児童生徒の学習環境の充実・支援**に取り組むこと。その際、特に課題が見られる学校における改善の取組を促すとともに、積極的に支援すること。

③個に応じた指導をはじめ、指導内容や指導方法等の改善を推進するため、**指導資料や教材の作成、教職員研修の実施や授業研究等への支援、教職員や非常勤講師の配置等への配慮など、教育施策の改善に適切に反映**させること。

④**優れた取組を行っている学校等の事例や調査結果の分析・検証手法等の周知**に努めるなど、**域内における学習指導や家庭における学習習慣・生活習慣等の改善**に向けた取組を推進すること。

４．調査結果を踏まえた学校における取組の推進について

(1) 学習指導等の改善に向けた取組の推進

各学校においては、児童生徒一人一人の結果の振り返りを進めるとともに、別添２に示した各種資料等も積極的に活用しながら、調査結果を分析・検証し、指導計画等に適切に反映させるなど学習指導等の改善に向けて計画的に取り組むこと。また、その際には、**調査実施学年以外の学年や調査実施教科以外の教科等を対象として、学校の教育活動全体を見渡した幅広い観点から取り組むべき課題や、その改善に向けた取組について検討**すること。

具体的には、次の事項について取り組むことが考えられること。

①学習指導要領の着実な実施

引き続き**「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善**や**「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実**、**カリキュラム・マネジメントの充実**を図ること。その際、各教科等の特質に応じて、具体的な学習内容、単元や題材などの構成、学習の場面等に応じた指導方法について研究を重ね、適切な指導方法を選択しながら、工夫して実践すること。また、**児童生徒の各教科への興味・関心、理解度を高める指導改善となるよう留意**すること。さらに、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題が見られる場合には、それを身に付けさせるために、児童生徒の学びを深めたり主体性を引き出したりといった工夫を重ねながら、確実な習得を図ることが求められること。また、**児童生徒の状況に応じて既習事項を取り上げて指導するなどして定着を図る**こと。

②ICT機器を活用した学習活動の充実

ICT機器を活用した学習を質・量ともに充実させていくため、調査結果を踏まえ、各学校における課題を改めて把握・分析し、学習指導等の改善に計画的に取り組むこと。

４．調査結果を踏まえた学校における取組の推進について

③児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組の推進

道徳教育や特別活動、体験活動、読書活動、生徒指導など**学校教育全体を通じて児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組**に努めるとともに、保護者や地域等の理解と協力の下に十分に連携をとりながら、**児童生徒の心のケアや基本的な学習習慣や生活習慣等の改善**に向けた取組等の推進に引き続き努めること。

④学習習慣・生活習慣の確立

家庭との連携を図りながら、発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促したりするなど家庭学習も視野に入れた指導を行うとともに、これを踏まえた予習・復習など家庭での学習課題を適切に課すこと。

また、**ICTを受動的に利用するにとどまらず主体的・能動的に活用することができるよう、授業等を通じた情報活用能力の育成等を図る**とともに、**SNS等を通じた犯罪被害を含む危険の回避などICTを正しく安全に利用することができるよう、情報モラル教育の充実、インターネットの適切な利用に関する教育・啓発活動等を推進**すること。

(2) 校内研修等の充実

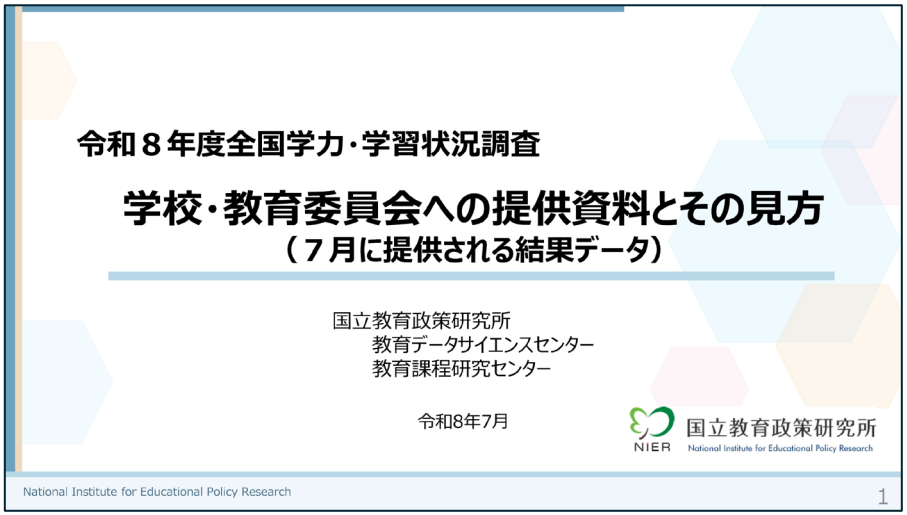
調査結果において課題の見られた点を中心に、教職員の指導力の向上、指導内容や指導方法等の改善を図るため、**校内研修等を適切に実施**すること。その際、別添２に示した各種資料等も積極的に活用すること。また、調査結果の分析・検証の結果やそれらを通じて得られた**具体的な課題などについては、学校全体で共有**するとともに、小・中・高等学校全体を通じて資質・能力を育成するため、近隣等の小学校や中学校や高等学校とも共有するなどして、**調査実施学年以外の学年や調査実施教科以外の教科等の指導改善等にも活用**すること。

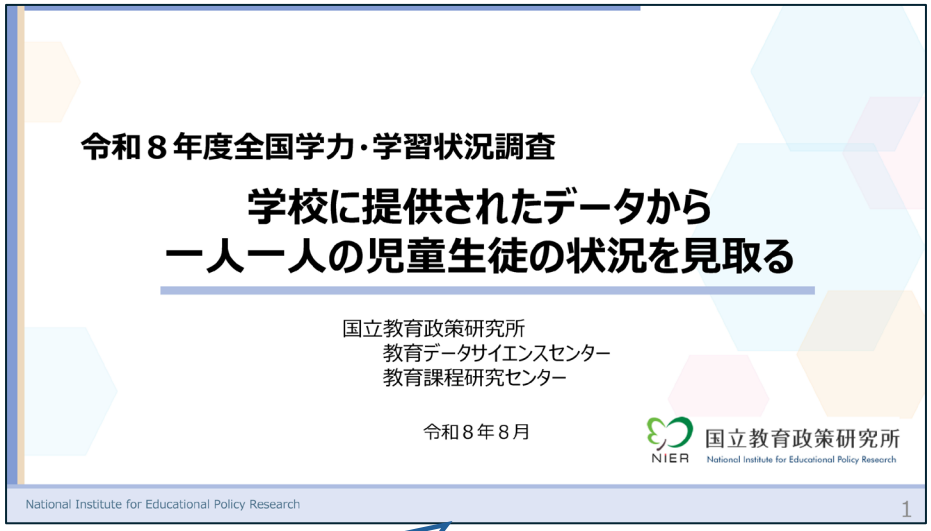
公教育データ・プラットフォーム「教育データ活用講座」

全国学力・学習状況調査の結果を活用するための解説動画

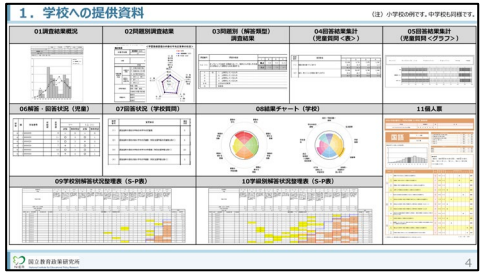
掲載URL☞ https://www.nier.go.jp/edsc/edp/seminar/

全国学力・学習状況調査の調査結果を最大限に生かし、日々の指導改善・充実につなげられるよう、データの見方や課題・成果の見つけ方などについて、具体例を基に分かりやすく解説しています。

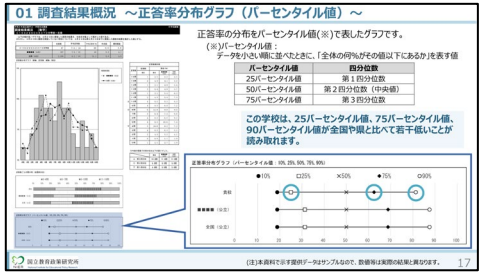




Part1
学校・教育委員会への提供資料



Part2
提供資料の見方



分析例1
質問調査結果から一人一人の状況を見取る
～「授業が分からない」と感じている児童を把握し、支援する～

分析例2
一人一人の教科調査結果をより細やかに読み取る
～体積に関する理解の状況やつまずきを把握し、支援する～

2 令和８年度質問調査結果の概要について

３ 質問調査結果（児童生徒、学校）①

※グラフはその他、無回答を除いているため、合計しても100%に満たない場合がある。
※ □ 内の数値は相関係数

R8

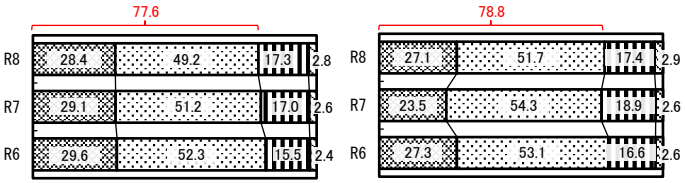
学習指導要領の趣旨を踏まえた取組

◆ 昨年度までと同様、約80%の児童生徒が**「主体的・対話的で深い学び」**に取り組んだと考えている。

課題の解決に向けて自分から取り組んだ

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

小学校



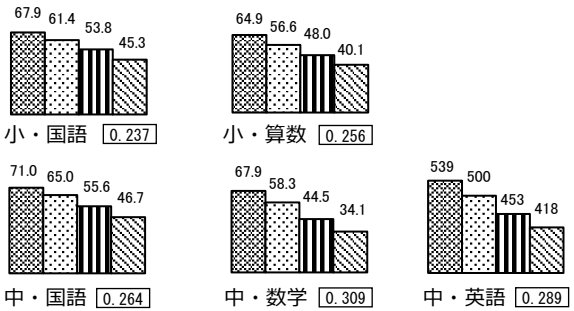
中学校

◆ **「主体的・対話的で深い学び」**に取り組んだと考える児童生徒ほど、**各教科の正答率・スコアが高い**傾向。

課題の解決に向けて自分から取り組んだ

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

選択肢ごとの平均正答率・スコア



※「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」以外の「主体的・対話的で深い学び」に関する回答でも同様の傾向。

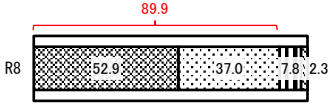
ICT機器の活用

◆ 約90%の児童生徒が、ICT機器を活用することで**「楽しみながら学習を進めることができる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」**と考えている。

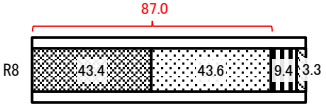
そう思う　どちらかといえば、そう思う
どちらかといえば、そう思わない　そう思わない

楽しみながら学習を進めることができる

小学校

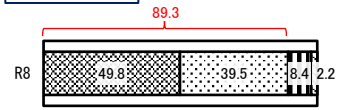


中学校

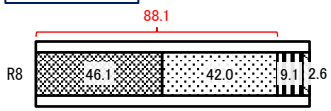


友達と協力しながら学習を進めることができる

小学校



中学校

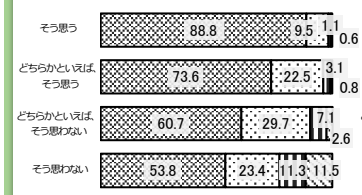


◆ ICT機器やインターネットについて、**ルールやマナーを守って活用できる**児童生徒ほど、**いじめはどんな理由があってもいけないこと**だという意識が高い。

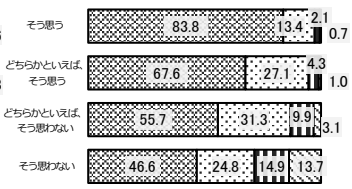
［ICTのルールやマナーを守って活用している］×［いじめはどんな理由があってもいけない］

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

小学校　0.231



中学校　0.223

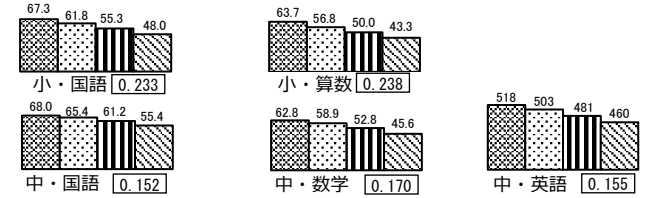


◆ ICT機器を**活用する自信がある**児童生徒ほど、**各教科の正答率・スコアが高い**傾向が見られる。

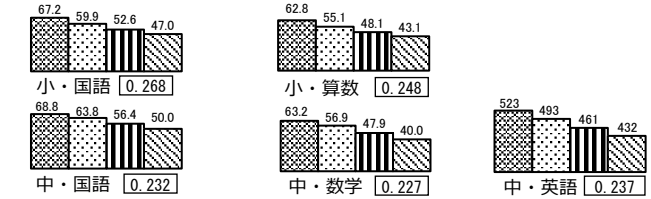
そう思う　どちらかといえば、そう思う
どちらかといえば、そう思わない　そう思わない

選択肢ごとの平均正答率・スコア

タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる



タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる



※「タブレットなどのICT機器で文章を作成することができる」、「インターネットを使って情報を収集することができる」に関する回答でも同様の傾向。

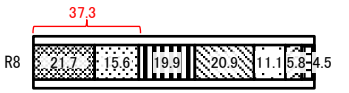
学校外での過ごし方

◆ SNSや動画視聴等の**利用時間が長い児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが低い**傾向が見られる。

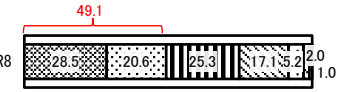
平日、１日当たりのスマートフォン等でのSNSや動画視聴時間

4時間以上　3時間以上、4時間より少ない　2時間以上、3時間より少ない
1時間以上、2時間より少ない　30分以上、1時間より少ない　30分より少ない
スマートフォン等を持っていない　※相関係数は「スマートフォン等を持っていない」回答を除外して算出

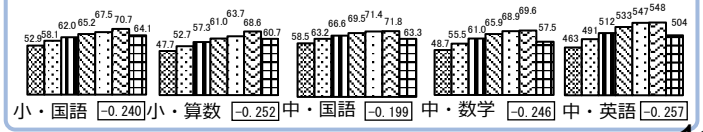
小学校



中学校



選択肢ごとの平均正答率・スコア



※中学校英語はCBTで実施し、英語４技能のIRTスコアにより結果を表示している。

③ 質問調査結果（児童生徒、学校）②

※グラフはその他、無回答を除いているため、合計しても100%に満たない場合がある。
※ □内の数値は相関係数

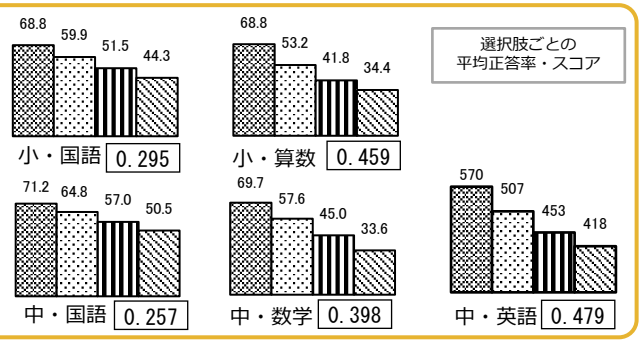
R8

各教科への興味・関心、理解度

◆ 「**授業の内容がよく分かる**」と回答した児童生徒ほど**各教科の正答率・スコアが高い**傾向。

授業の内容がよく分かる

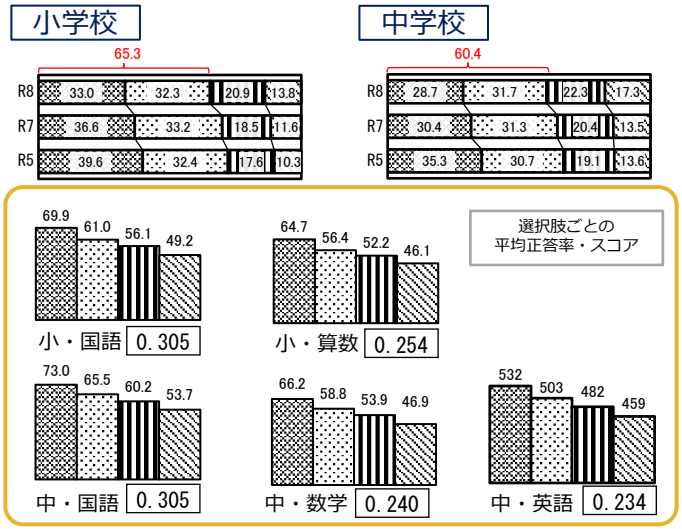
当てはまる　どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない



◆ 「**読書は好き**」と回答した児童生徒ほど**各教科の正答率・スコアが高い**傾向。

読書は好き

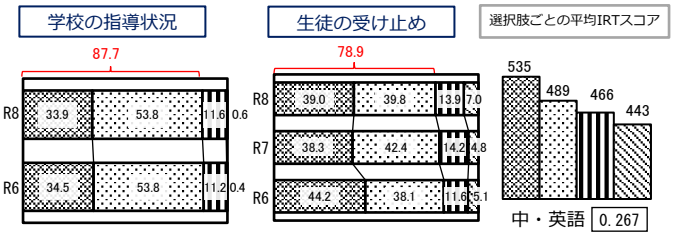
当てはまる　どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない



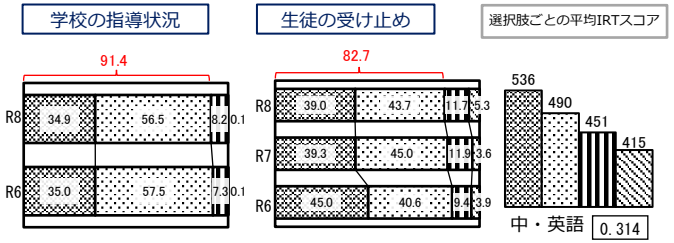
◆ 中学校英語の授業において、**言語活動に取り組んでいると受け止めている**生徒の方が**スコアが高い**傾向が見られる。

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていた



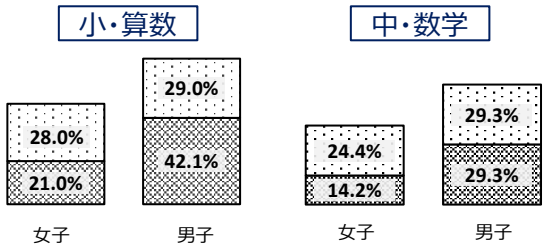
自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていた



◆ **算数・数学**の平均正答率に**大きな男女差は見られない**一方、**「得意」**と考える割合は、**男子の方が女子より高い。**

算数〔数学〕の勉強は得意だ

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる

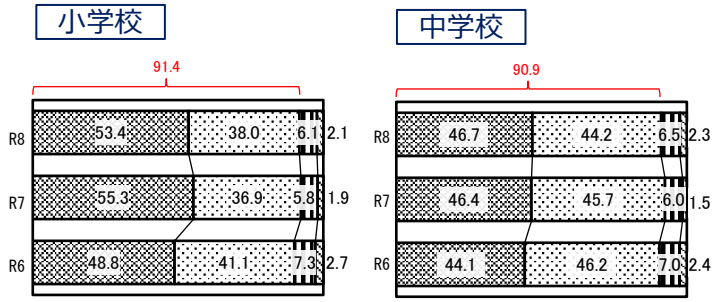


ウェルビーイング

◆ 「**先生は、あなたのよいところを認めてくれる**」と回答した児童生徒ほど、**学級で人と違う意見を言っても否定されない**と考えている。

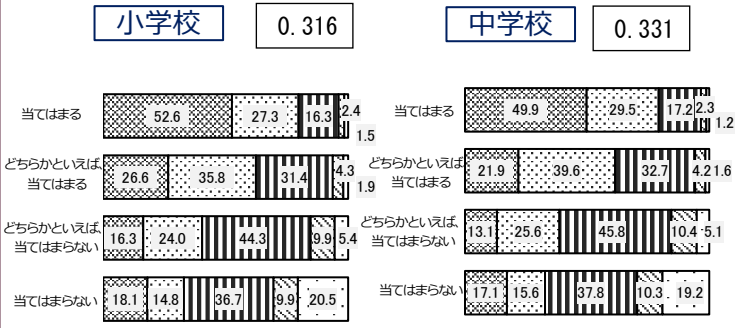
先生は、あなたのよいところを認めてくれる

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない



［先生は、あなたのよいところを認めてくれる］×［学級では人と違う意見を言っても否定されない］

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる
どちらともいえない
どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない



※中学校英語はCBTで実施し、英語４技能のIRTスコアにより結果を表示している。

「主体的・対話的で深い学び」×「好奇心・問題解決力・粘り強さ・挑戦心」

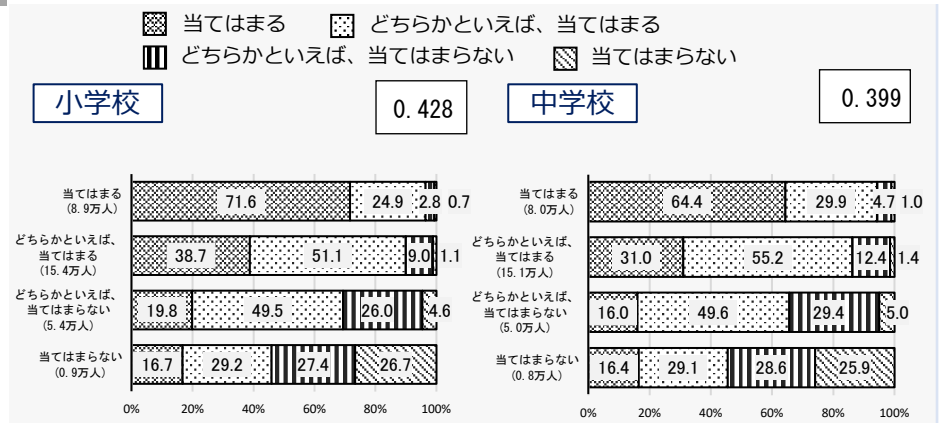
○　児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」に関する回答と「好奇心・問題解決力・粘り強さ・挑戦心」に関する回答の間には相関が見られる。児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」が、「好奇心・問題解決力・粘り強さ・挑戦心」に影響を与えている可能性がある。

クロス集計（児童生徒）

［課題の解決に向けて自分から取り組んだ］×［新しいことを学ぶのは好きだ］

新しいことを学ぶのは好きですか。〔19－2〕

5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。〔39〕

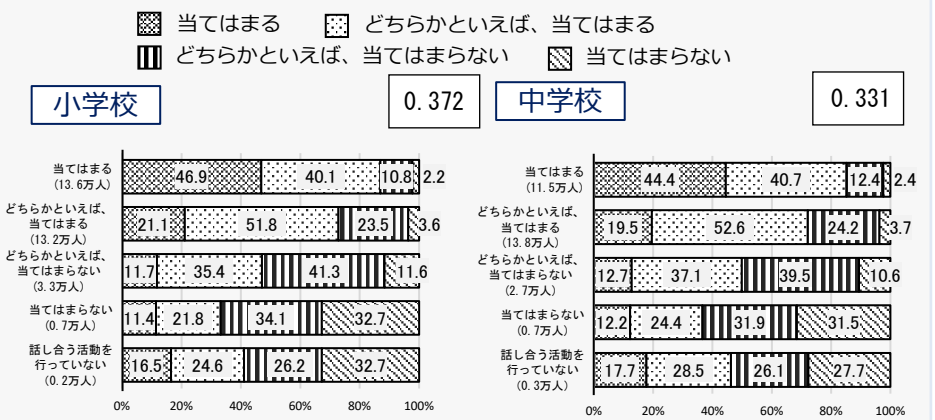


クロス集計（児童生徒）

［話合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした］×［問題の解決策を見つけることは好きだ］

問題の解決策を見つけることは好きですか。〔19-3〕

学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。〔42〕



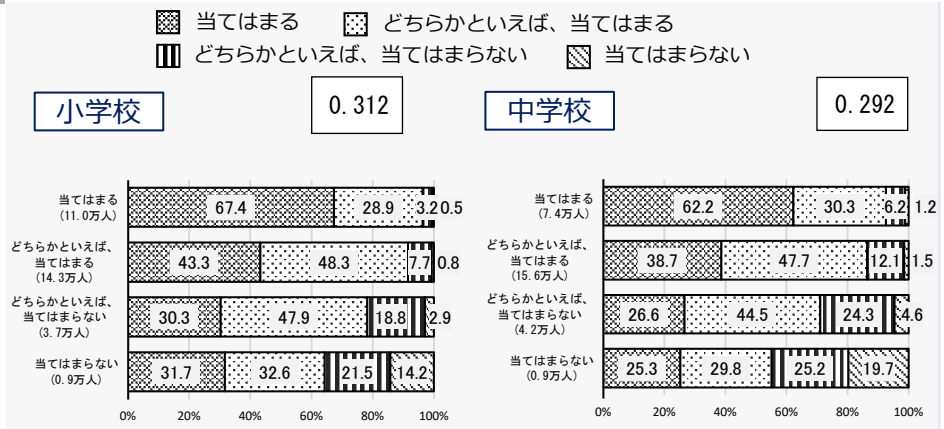
※　相関係数は、児童生徒質問42における「話し合う活動を行っていない」の回答を除外して算出

クロス集計（児童生徒）

［個別最適な学び］×［粘り強さ］

課題は終えるまでやり通していますか。〔18-1〕

5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。〔41〕

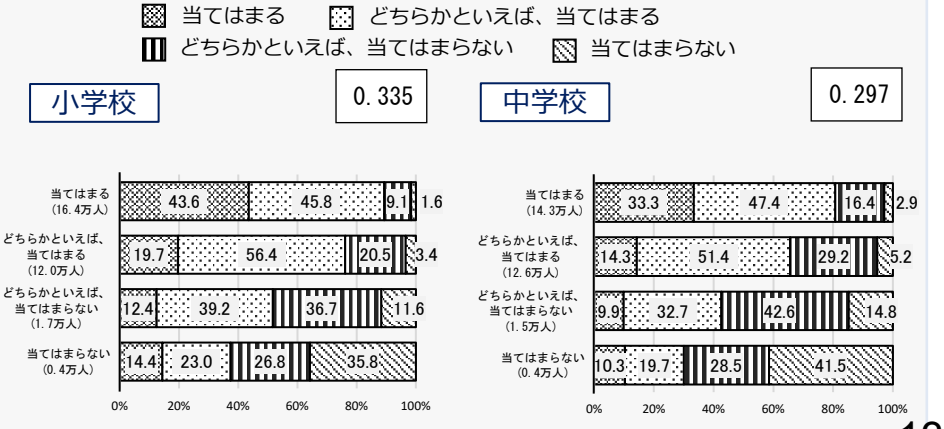


クロス集計（児童生徒）

［協働的な学び］×［挑戦心］

課題が難しくなると、さらに努力していますか。〔18-2〕

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。〔46〕



「特別支援教育の視点に立った学級全体での指導の工夫」×「主体的・対話的で深い学び」

○　学校の「特別支援教育の視点に立った学級における指導の工夫」に関する回答と「主体的・対話的で深い学び」や「協働的な学び」に関する回答の間には、一定の関係が見られる。

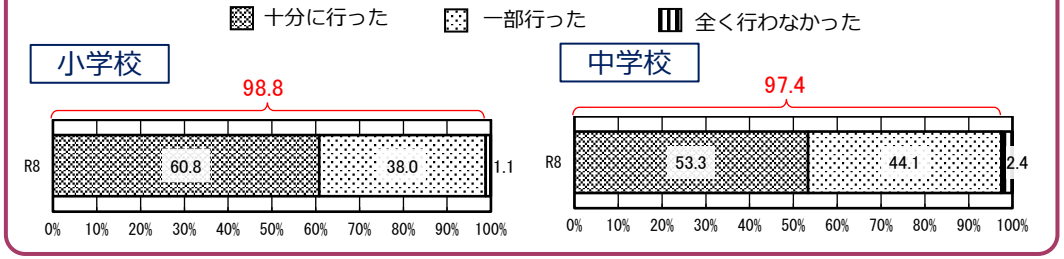
・教師が障害のある児童生徒も含めた多様な児童生徒を念頭に学級全体での指導の工夫を行うことが、児童生徒が周囲の考えを尊重しながら、協働的に学ぶ環境づくりに寄与していたり、

・障害のある児童生徒に対して個に応じた指導内容・方法の工夫を行うことが、児童生徒が自ら計画的・主体的に学ぶ意欲を担保したり、

といった影響を与えている可能性がある。

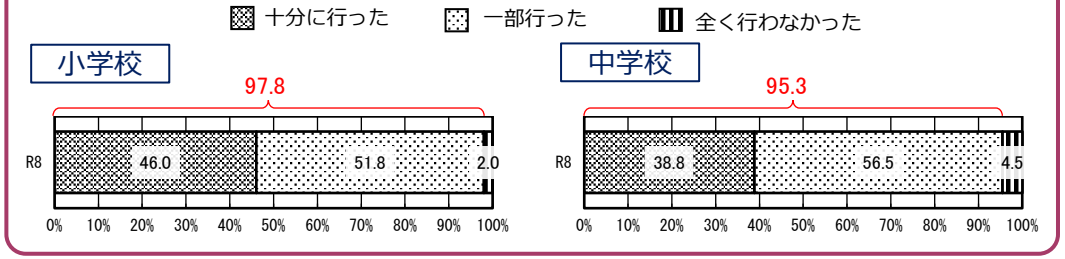
学校質問
小学校〔72〕
中学校〔80〕

授業の中で、発達障害を含む障害のある児童〔生徒〕も含めた、多様な児童〔生徒〕が通常の学級に在籍していることを前提に、学級全体での指導の工夫を行いましたか。【新規】



学校質問
小学校〔73〕
中学校〔81〕

授業の中で、発達障害を含む障害のある児童〔生徒〕に対する個に応じた指導内容や指導方法の工夫として、当該児童〔生徒〕が学習活動を行う場合に生じる「困難さ」に対する「指導上の工夫の意図」を理解し、個に応じた様々な「手立て」を講じましたか。【新規】

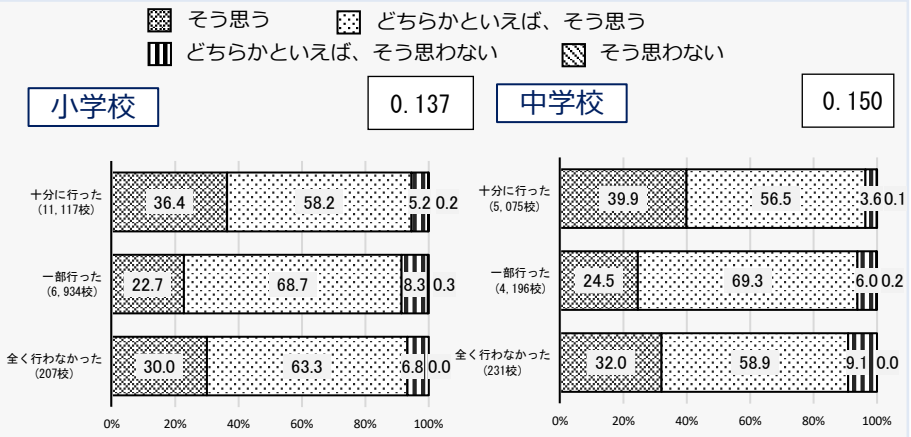


クロス集計（学校質問）

［多様な児童〔生徒〕に対する学級全体での指導の工夫］×［周りの人の考えを大切にし、協力しながら課題を解決］

調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めていると思いますか。〔29〕

授業の中で、発達障害を含む障害のある児童〔生徒〕も含めた、多様な児童〔生徒〕が通常の学級に在籍していることを前提に、学級全体での指導の工夫を行いましたか。〔72（80）〕

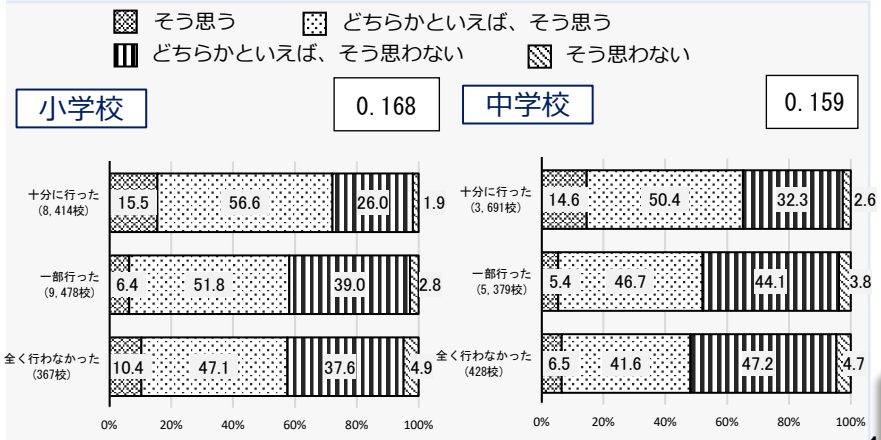


クロス集計（学校質問）

［多様な児童〔生徒〕に対する学級全体での指導の工夫］×［児童生徒の主体的な学びの状況］

調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか。〔30〕

授業の中で、発達障害を含む障害のある児童〔生徒〕に対する個に応じた指導内容や指導方法の工夫として、当該児童〔生徒〕が学習活動を行う場合に生じる「困難さ」に対する「指導上の工夫の意図」を理解し、個に応じた様々な「手立て」を講じましたか。〔73（81）〕



ICT活用による効果　～ICTを活用する自信×学びへの意欲・工夫～

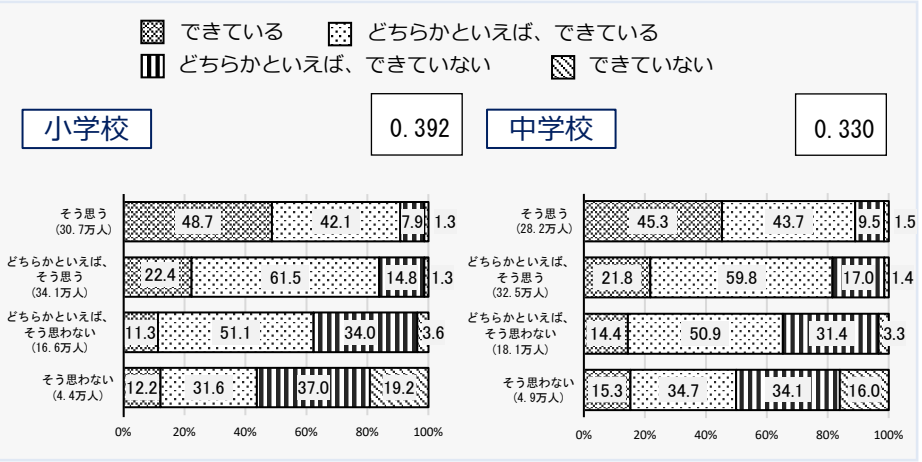
○　ICT機器を活用する自信がある児童生徒ほど、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに自分で学び方を考えて工夫したり、課題の解決に向けて自分で考えて取り組んだりしていると考えている傾向が見られる。（個別最適な学び）

○　ICT機器を活用する自信がある児童生徒ほど、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり新たな考えに気づいたり、自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したりしていると考えている傾向が見られる。（協働的な学び）

クロス集計（児童生徒）［ICTで情報を整理できる］×［自分で学び方を考え、工夫する］

分からないことやくわ〔詳〕しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。〔22〕

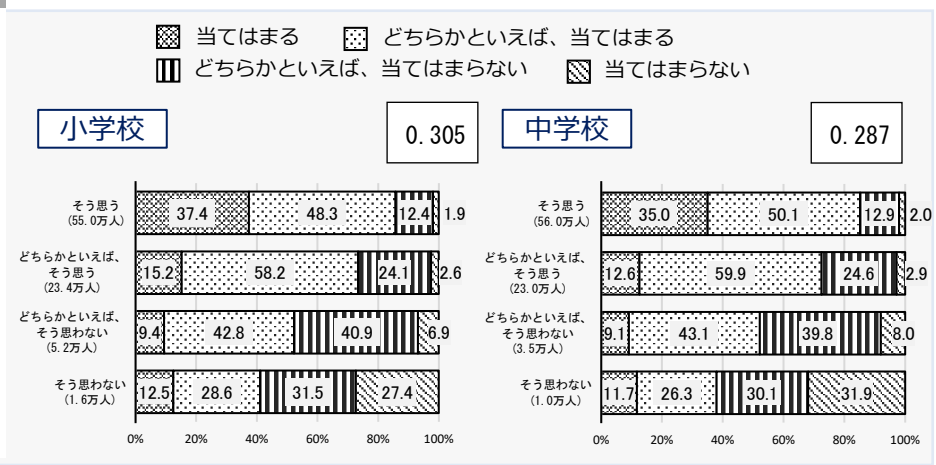
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。〔36－3〕



クロス集計（児童生徒）［インターネットで情報収集できる］×［課題の解決に向けて自分で考えて取り組む］

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。〔39〕

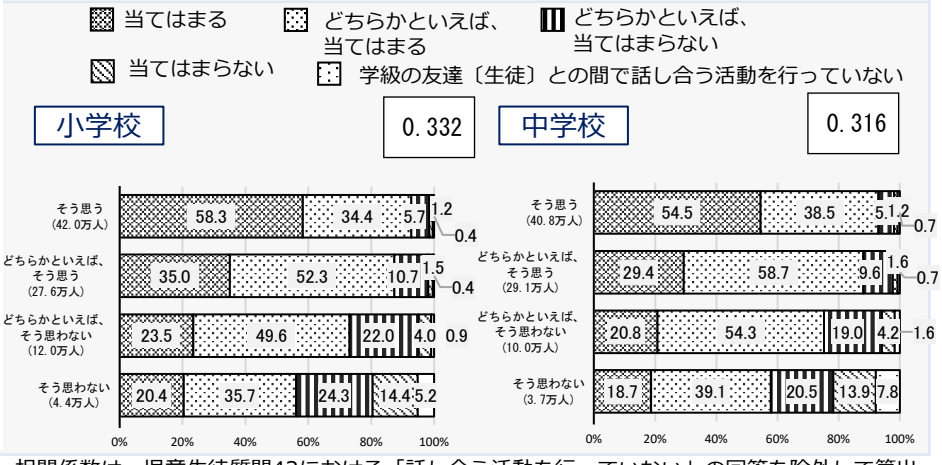
あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。〔36－2〕



クロス集計（児童生徒）［プレゼンを作成することができる］×［話合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした］

学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。〔42〕

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。〔36－4〕

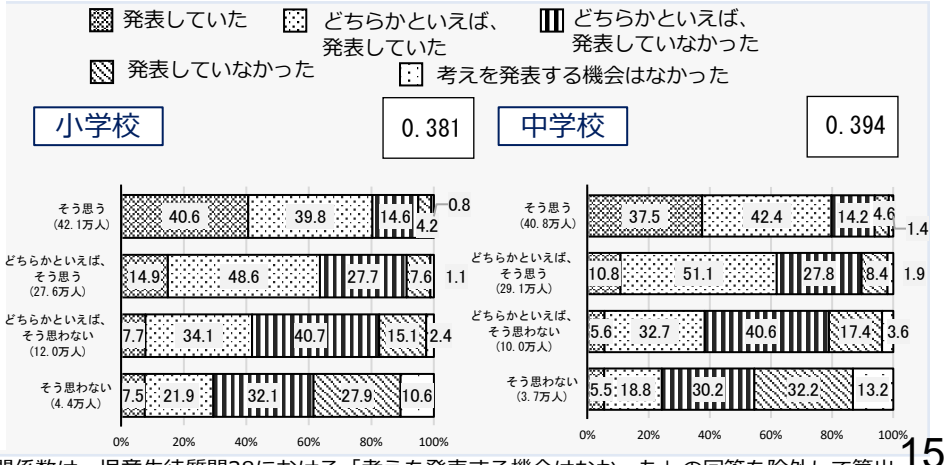


※　相関係数は、児童生徒質問42における「話し合う活動を行っていない」の回答を除外して算出

クロス集計（児童生徒）［プレゼンを作成することができる］×［自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表した］

５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。〔38〕

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。〔36－4〕



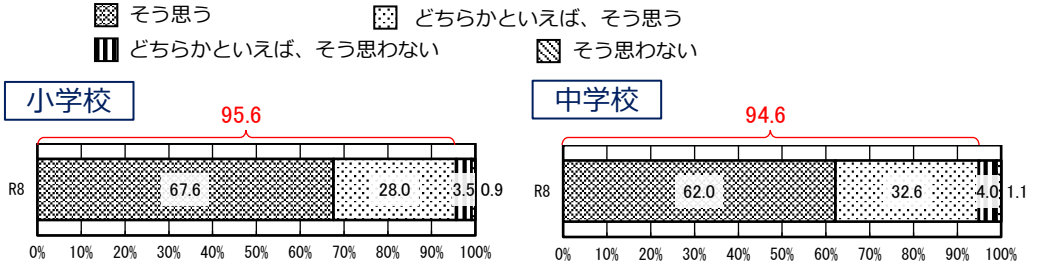
※　相関係数は、児童生徒質問38における「考えを発表する機会はなかった」の回答を除外して算出

② ICT機器やインターネット活用に関するルールやマナー

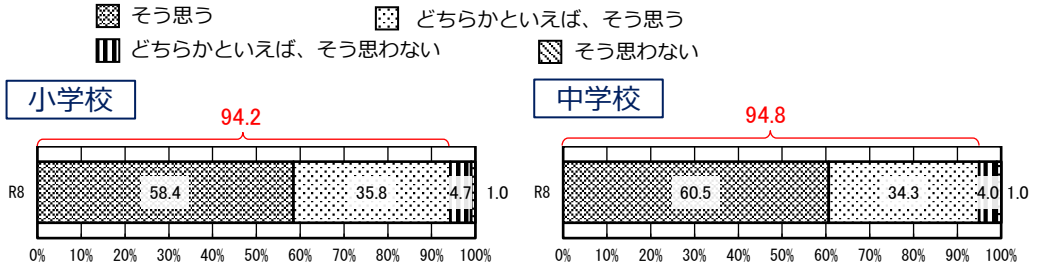
ポイント

- ほぼ全ての児童生徒が、ICT機器やインターネットの利用に当たってのルールやマナーを学校で学んでおり、ルールやマナーを守って活用できると回答している。そのような児童生徒ほど、いじめがどんな理由があってもいけないことだと思っている傾向が見られる。

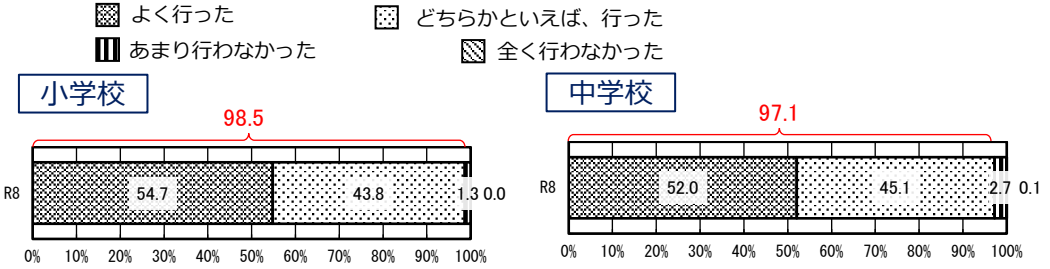
児童〔37-9〕
生徒〔37-9〕
ICT機器やインターネットの利用に当たってのルールやマナーに関して学校で教えてもらっている。【新規】



児童〔37-10〕
生徒〔37-10〕
ICT機器やインターネットについて、ルールやマナーを守って活用することができている。【新規】



学校質問
小学校〔69〕
中学校〔77〕
ICT機器やインターネットの利活用について、目的や場面に応じた適切な使い方や、利活用にあたってのルールやマナー（長時間利用防止や情報の取扱いも含む）に関する指導を行いましたか。【新規】

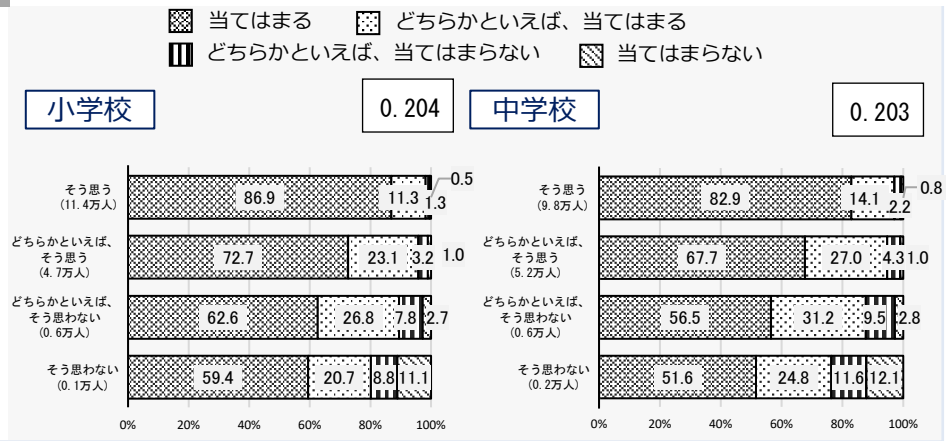


クロス集計（児童生徒）

ICT機器やインターネットの利用に当たってのルールやマナーに関して学校で教えてもらっている。〔37-9〕

［ICTのルールやマナーを学校で教えてもらっている］×［いじめについての規範意識］

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。〔12〕

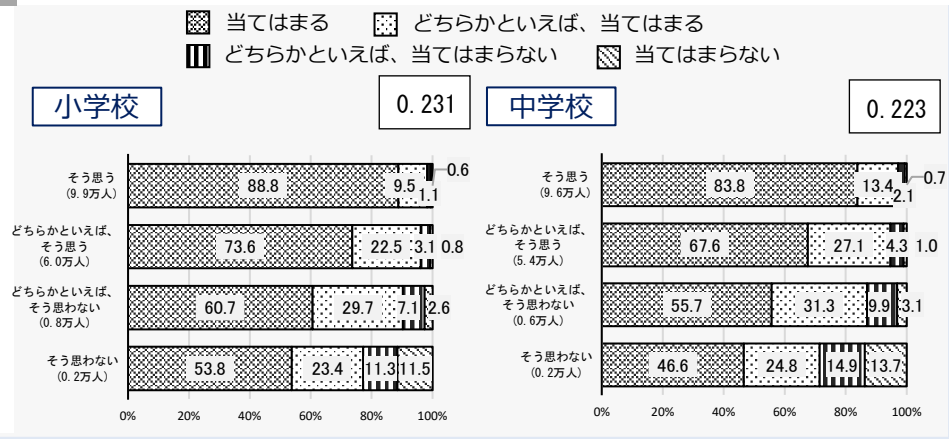


クロス集計（児童生徒）

ICT機器やインターネットについて、ルールやマナーを守って活用することができている。〔37-10〕

［ICTのルールやマナーを守って活用している］×［いじめについての規範意識］

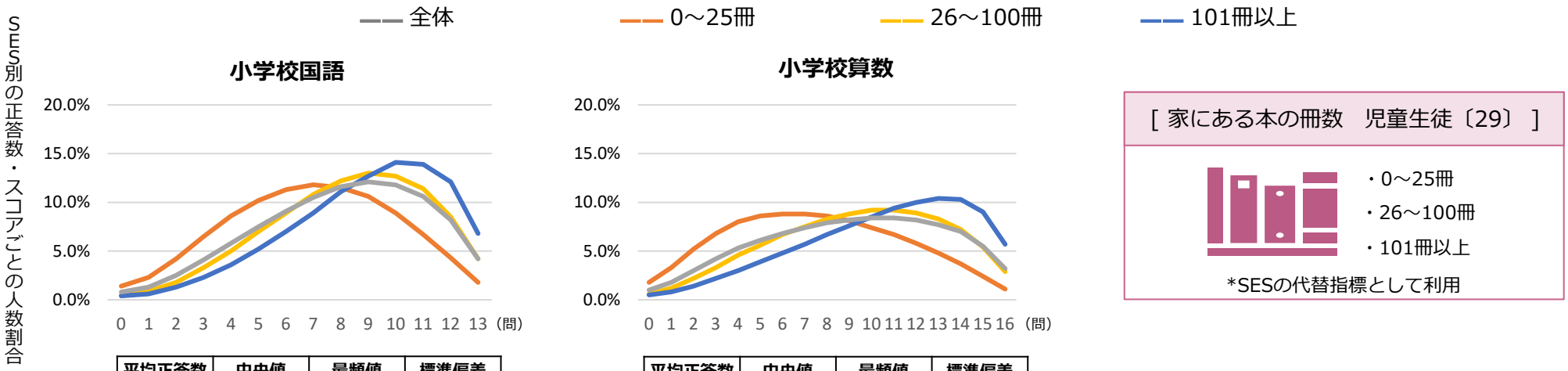
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。〔12〕



「社会経済的背景（SES）」×「正答数・スコア」の関係

○ 今回の調査でも、家庭の社会経済的背景（SES：Socio-Economic Status）*が低いグループほど、各教科の正答数・スコアが低い傾向が見られる。

*本調査では、児童生徒質問調査〔29〕「家にある本の冊数」をSESの代替指標として利用



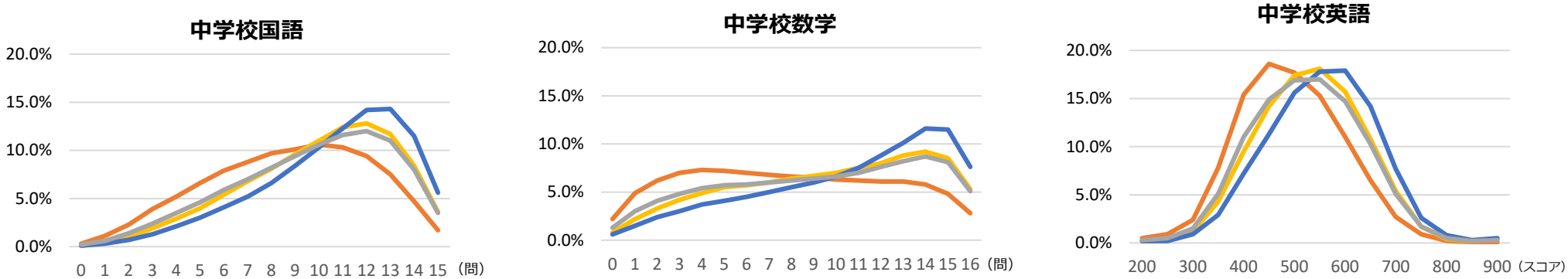
[家にある本の冊数　児童生徒〔29〕]

・0～25冊
・26～100冊
・101冊以上

*SESの代替指標として利用

	平均正答数	中央値	最頻値	標準偏差
0～25冊(30.3万人)	6.9	7	7	3
26～100冊(29.4万人)	8.2	8	9	2.8
101冊以上(28.4万人)	8.9	9	10	2.8
全国（国公私）	7.9	8	9	3.0

	平均正答数	中央値	最頻値	標準偏差
(30.3万人)	7.5	7	7	3.9
(29.4万人)	9.4	10	10	3.8
(28.4万人)	10.5	11	13	3.7
	9.1	9	11	4.0



	平均正答数	中央値	最頻値	標準偏差
0～25冊(30.3万人)	8.7	9	10	3.4
26～100冊(25.8万人)	9.9	10	12	3.1
101冊以上(26.8万人)	10.6	11	13	3.1
全国（国公私）	9.6	10	12	3.3

	平均正答数	中央値	最頻値	標準偏差
(30.4万人)	7.9	8	4	4.4
(25.8万人)	9.6	10	14	4.3
(26.8万人)	10.5	11	14	4.1
	9.2	10	14	4.5

	平均スコア	中央値	最頻値	標準偏差
(1.7万人)	467	462	—	103
(1.4万人)	508	507	—	105
(1.4万人)	531	534	—	106
	499	499	—	108

「社会経済的背景（SES）」×「ICTの活用」×「教科の正答率・スコア」の関係

三重クロス集計

○　家庭の社会経済的背景(SES: Socio-Economic Status)*が低いほど、各教科の正答率・スコアが低い傾向が見られる。一方で、SESが低い状況にあっても、 ICT機器を活用する自信がある生徒は、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。例えば、「ICT機器を使って学校でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる」という質問について、低SESグループであっても「そう思う」と答えた生徒は、高SESグループで「そう思わない」と答えた生徒より平均正答率・スコアが高い傾向がある。また、低SESグループは高SESグループと比べて相関係数が高くなっており、特に低SESグループの学力向上（SESによる学力格差の緩和）への寄与が示唆される。同様の傾向が小学校においても見られる。

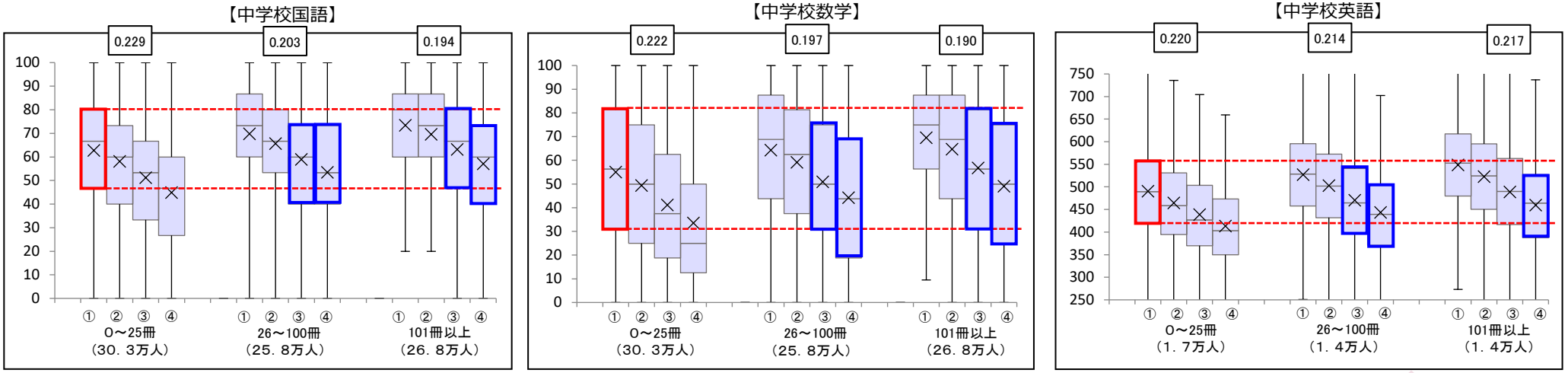
○　なお、「ICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる」という質問においても、小・中学校ともに同様の傾向が見られる。

*本調査では、児童生徒質問調査での「家にある本の冊数」（生徒〔29〕）をSESの代替指標として利用している。

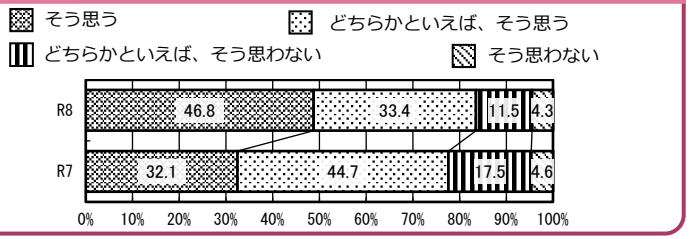
［家にある本の冊数］×［ICT機器を使ってプレゼンテーションを作成することができる］×［教科の正答率・スコア］

①　そう思う　②　どちらかといえば、そう思う
③　どちらかといえば、そう思わない　④　そう思わない

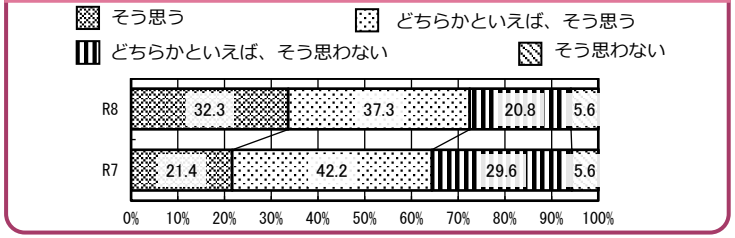
［各教科の正答率・スコア］



生徒質問〔36-4〕　あなたは、自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。



生徒質問〔36-3〕　あなたは、自分がタブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。



グラフの見方

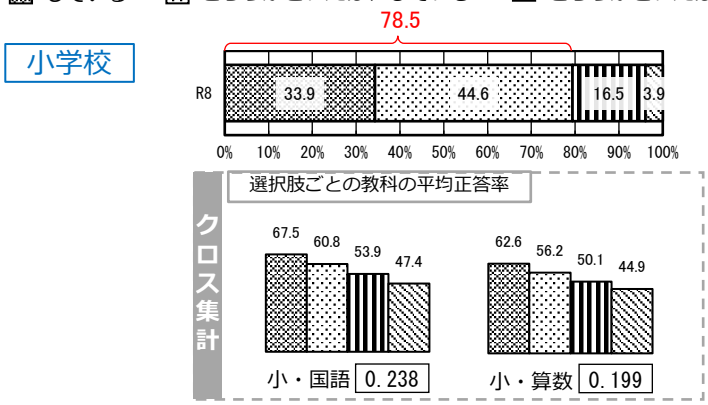
- 例えば、中学校国語では、低SESグループ（本が０～25冊）でICTの活用の質問に「①」と回答した生徒の箱ひげ図の箱は、中SESグループ（本が26～100冊）、高SESグループ（本が101冊以上）で「③」、「④」と回答した生徒の箱より上の位置にある。
- ×は、各選択肢の平均値を表している。
- 箱ひげ図の上部にある四角内の数値は、各SESグループごとの相関係数を示している。

③ 国語科、算数・数学科における思考・判断・表現の取組

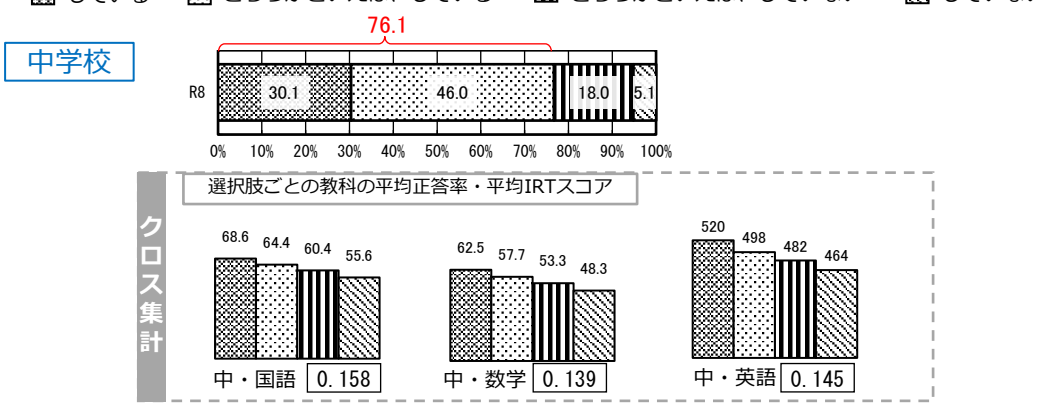
ポイント

- 小学校において、「国語の授業で自分の考えをまとめている」「算数の授業でどのように考えたのかについて説明する活動を行っている」と考えている児童ほど、各教科の正答率が高い。また、中学校において、「国語の授業で、文章を書いた後に、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章の良い点や改善点を見いだしている」「数学の授業で文字を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することはできている」と考えている生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い。このように、思考・判断したことを書く、話すなどの活動を通じ表現している児童生徒は、正答率・スコアが高いといえる。

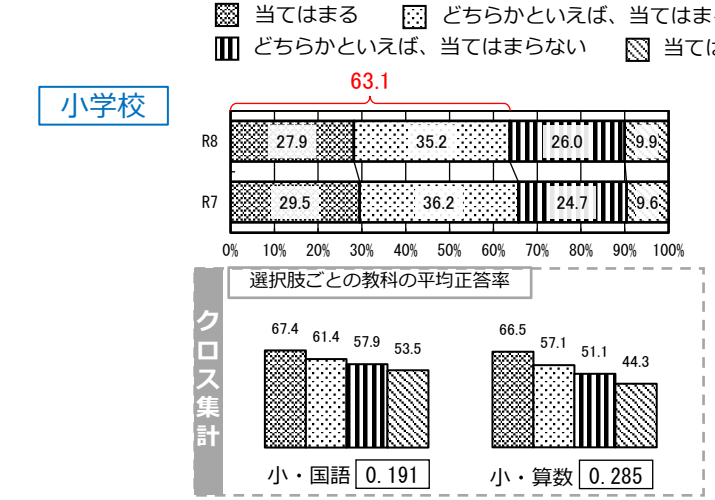
児童〔59〕 国語の授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていましたか。 【新規】



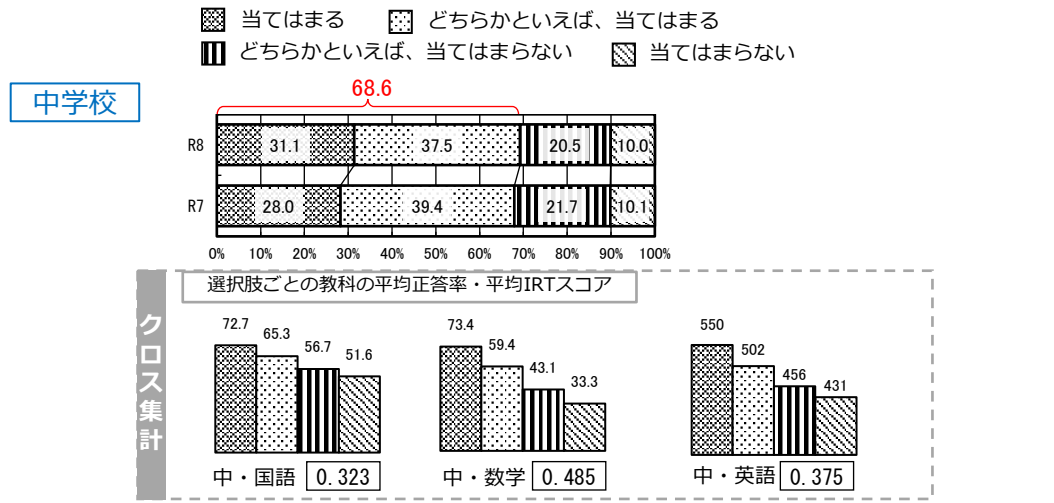
生徒〔59〕 国語の授業で、文章を書いた後に、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章の良い点や改善点を見いだしていましたか。 【新規】



児童〔66〕 算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか。



生徒〔67〕 数学の授業で、文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができましたか。



④ 外国語科における言語活動の状況

ポイント

- 中学校の英語の授業について、学校の言語活動（領域別）の指導状況に関し、８～９割の学校が肯定的な回答を行っている。また、授業において言語活動に取り組んだと受け止めている生徒の方がスコアが高い傾向が見られる。
- 授業で「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考えている生徒ほど、英語「話すこと（やり取り・発表）」の言語活動にも取り組んだと考えている傾向が見られる。

英語については、学校質問調査と生徒質問調査で同一の内容について質問しているため、学校の指導状況（学校質問調査の結果）と生徒の受け止め（生徒質問調査の結果）及び選択肢ごとのIRTスコアを示しています。
なお、生徒質問調査〔77〕では、生徒は〔77-1〕～〔77-5〕の５項目のうちランダムに選ばれた２項目に回答しています。

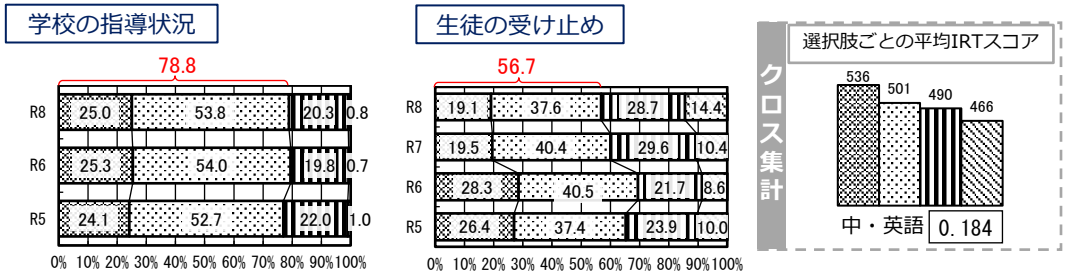
学校調査 中学校〔55〕～〔61〕：調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、次のような指導をどの程度行いましたか。当てはまる番号を１つ選んでください。

よく行った　どちらかといえば、行った　どちらかといえば、行わなかった　行わなかった

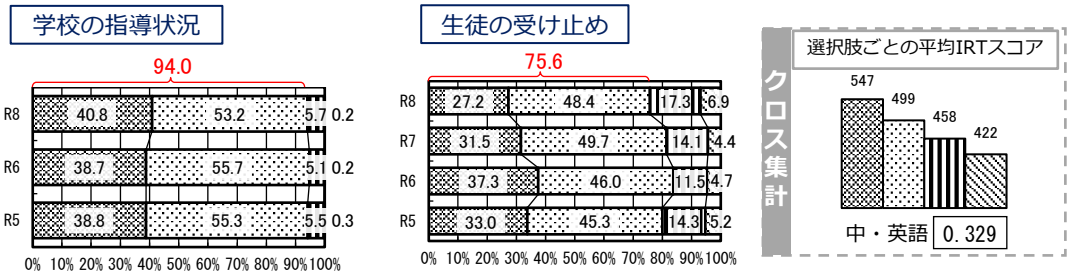
生徒〔77〕：次のことは、あなたにどれくらい当てはまりますか。あなたが１、２年生のときに受けた授業を振り返り、最も近い番号を1つ選んでください。

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる　どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

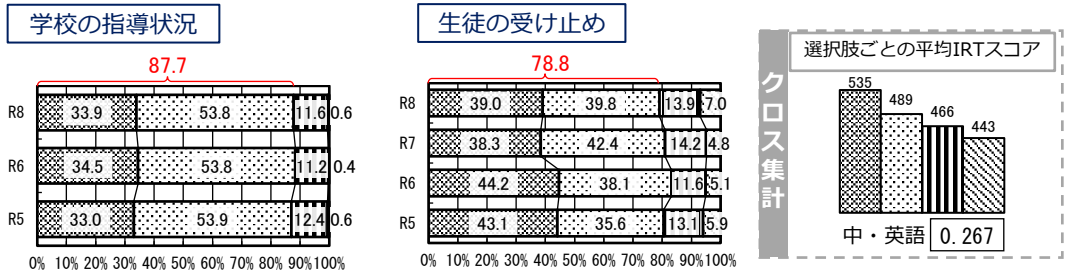
学校〔57〕 生徒〔77-3〕 原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていましたか。



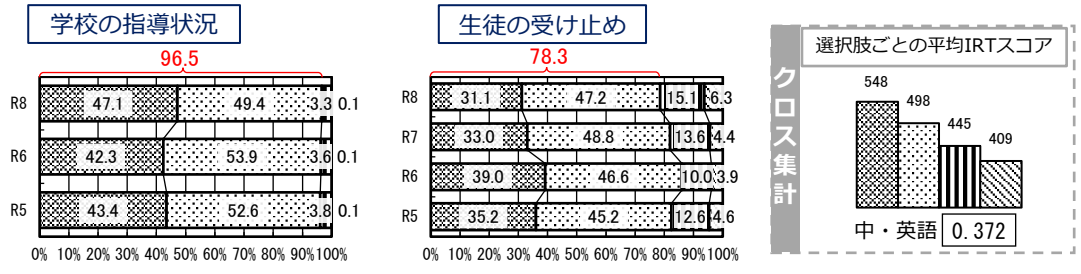
学校〔55〕 生徒〔77-1〕 英文を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていましたか。



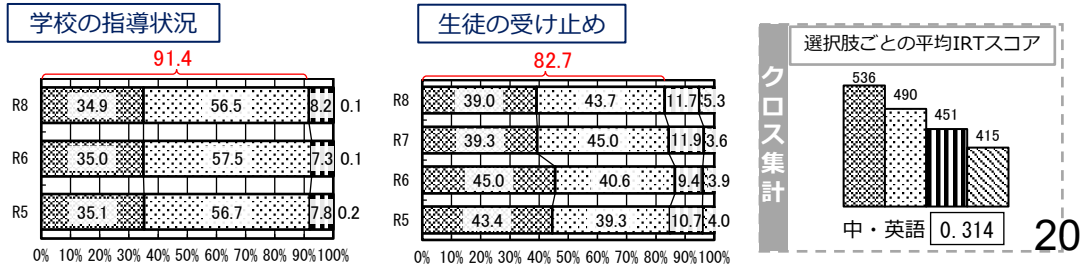
学校〔58〕 生徒〔77-4〕 スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていましたか。



学校〔56〕 生徒〔77-2〕 英文を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていましたか。



学校〔59〕 生徒〔77-5〕 自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていましたか。

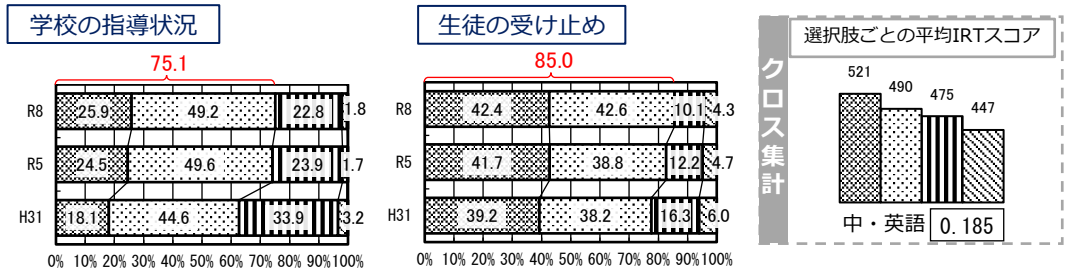


英語については、学校質問調査と生徒質問調査で同一の内容について質問しているため、学校の指導状況（学校質問調査の結果）と生徒の受け止め（生徒質問調査の結果）及び選択肢ごとのIRTスコアを示しています。
なお、各質問項目の選択肢は以下のとおりです。

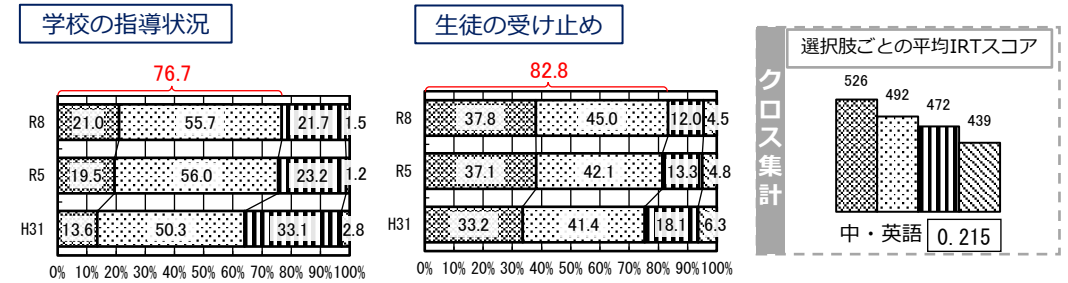
学校調査：よく行った／どちらかといえば、行った／どちらかといえば、行わなかった／行わなかった

生徒調査：当てはまる／どちらかといえば、当てはまる／どちらかといえば、当てはまらない／当てはまらない

学校〔60〕生徒〔78〕 聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていましたか。



学校〔61〕生徒〔79〕 聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていましたか。



「話すこと」の言語活動と「主体的・対話的で深い学び」との関係

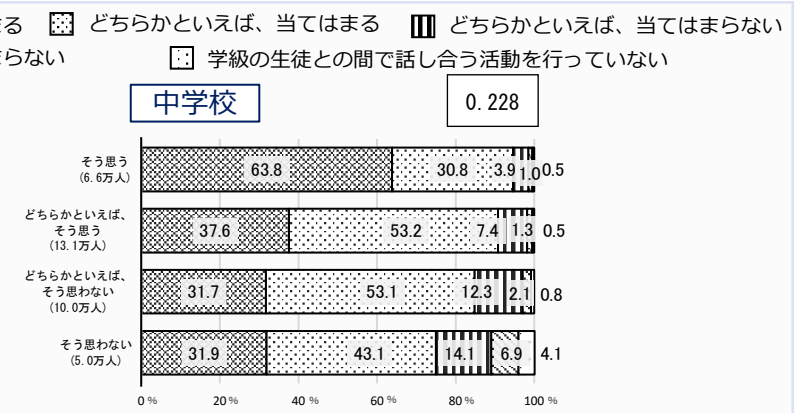
○　授業で「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考えている生徒ほど、英語「話すこと（やり取り・発表）」の言語活動にも取り組んだと考えている傾向が見られる。

クロス集計（生徒質問）

［「話すこと（やり取り）」の言語活動］×［話合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした］

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。〔42〕

原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていましたか。〔77-3〕



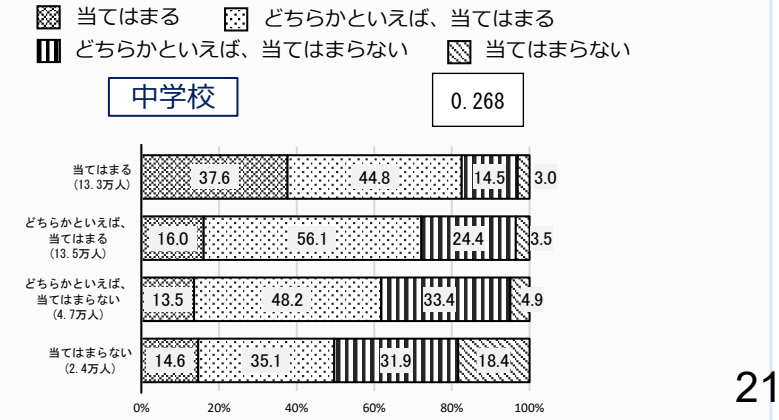
※　相関係数は、児童生徒質問42における「学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない」の回答を除外して算出

クロス集計（生徒質問）

［「話すこと（発表）」の言語活動］×［学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動をした］

１、２年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。〔40〕

スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていましたか。〔77-4〕



(4) 授業外（学校外）での学習や生活の状況

① 授業外の学習状況

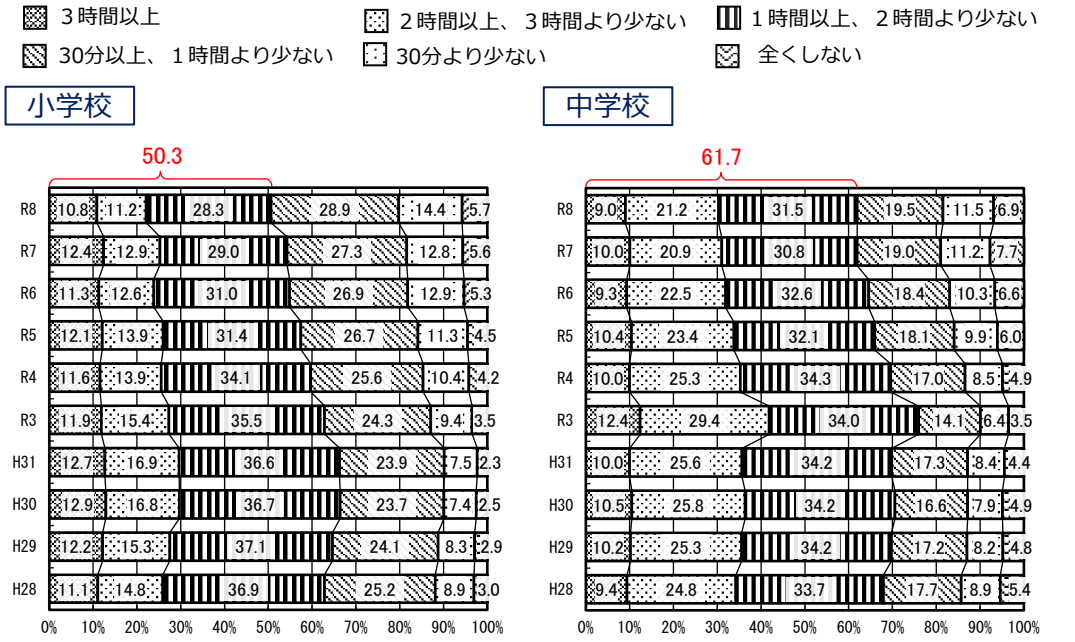
ポイント

- 学校の授業時間以外における児童生徒の勉強時間は、小学校、中学校とも令和３年度以降、平日、休日いずれも減少傾向。
- 学校の授業時間以外における勉強時間が長い児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。

平日の勉強時間

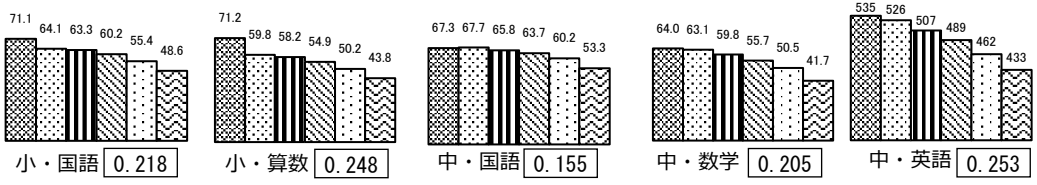
児童〔23〕
生徒〔23〕

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。



クロス集計

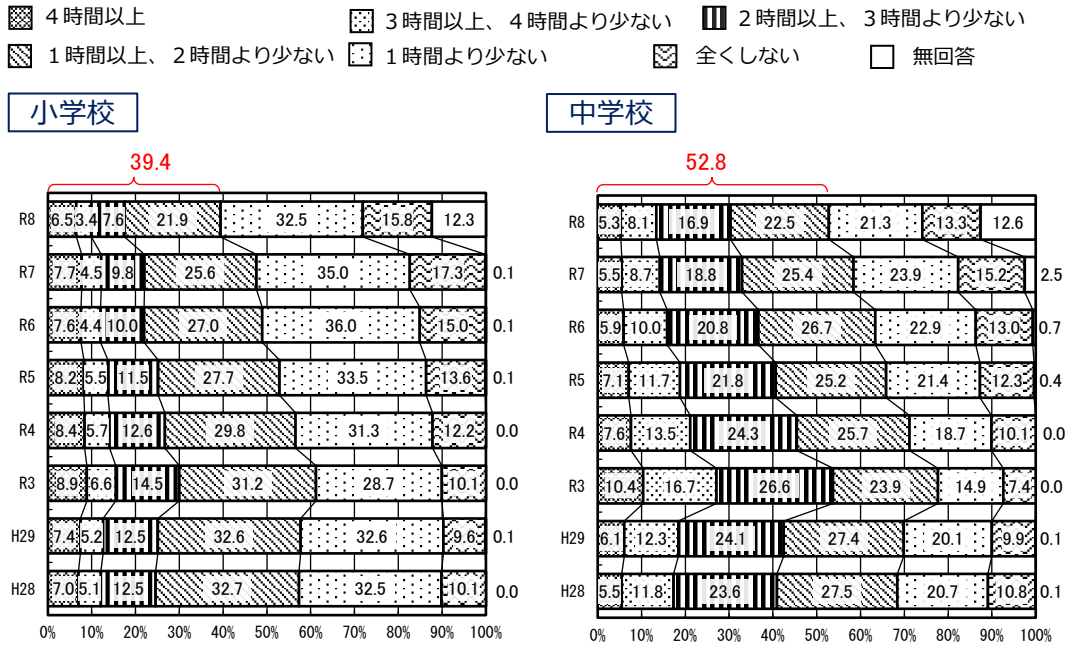
選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



休日の勉強時間

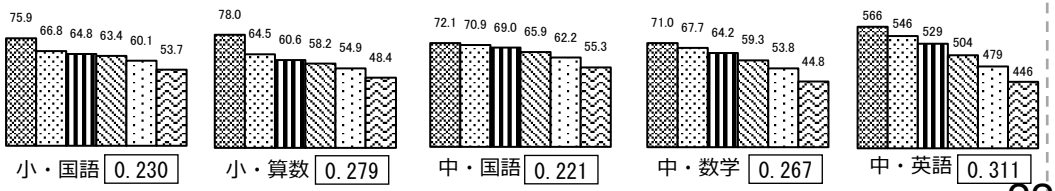
児童〔25〕
生徒〔25〕

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。



クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

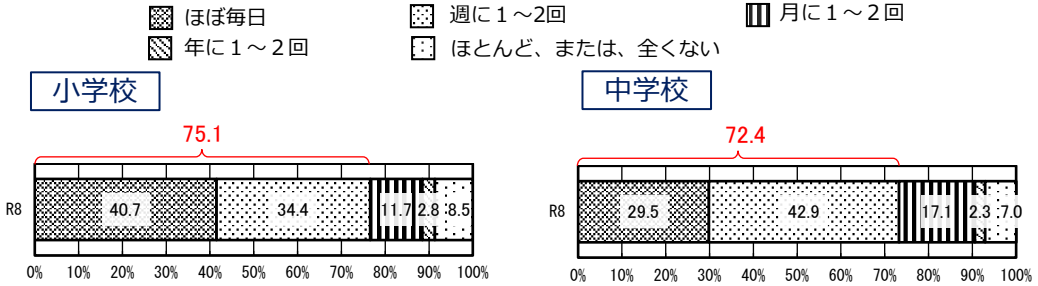


② 授業外（学校外）での学習環境

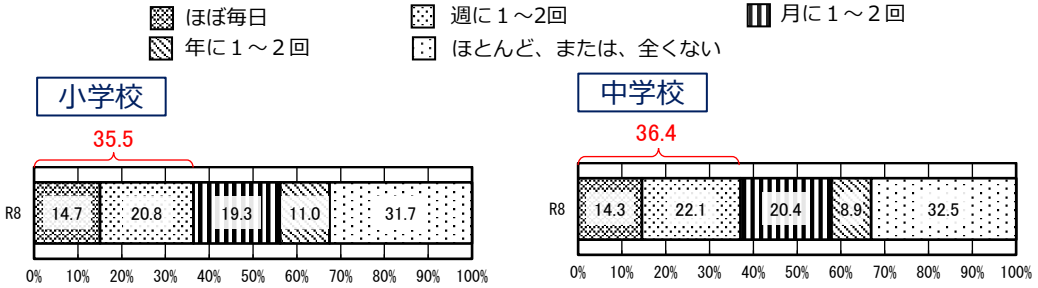
ポイント

- 約７割の児童生徒が、週に１回以上、学校の勉強のことについて親や家族と話している。また、約４割の児童生徒が、週に１回以上、学校での悩みについて親や家族と話している。
- 学校の勉強のことを親や家族と話していると考える児童生徒ほど、「自分の理解を確認するために、学習したことを振り返る」と考える傾向があり、また、「普段（月曜日から金曜日）の授業時間以外の学習時間」が多い。

児童〔６〕 生徒〔６〕 学校の勉強のことについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか。【新規】



児童〔７〕 生徒〔７〕 学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか。【新規】

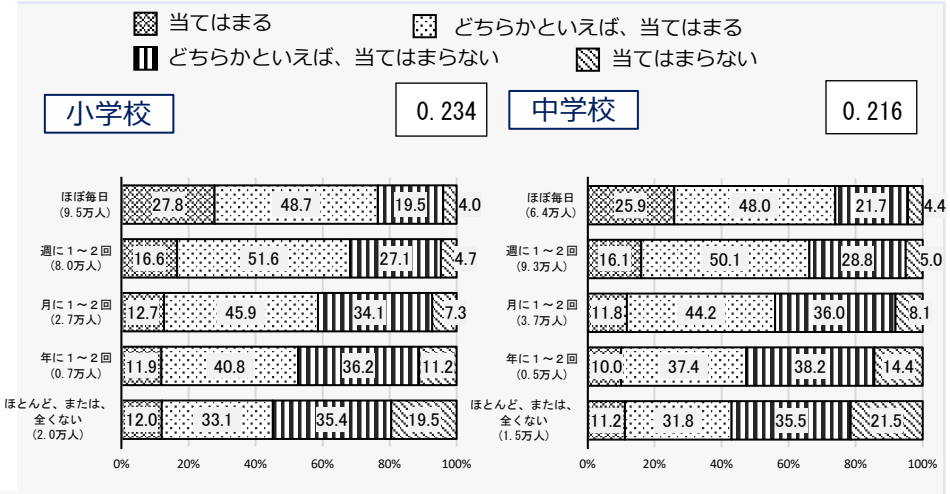


「学校の勉強のことを親や家族と話すこと」の影響

クロス集計（児童生徒）

［学校の勉強のことを親や家族と話すこと］×［自分の理解を確認するために、学習したことを振り返る］

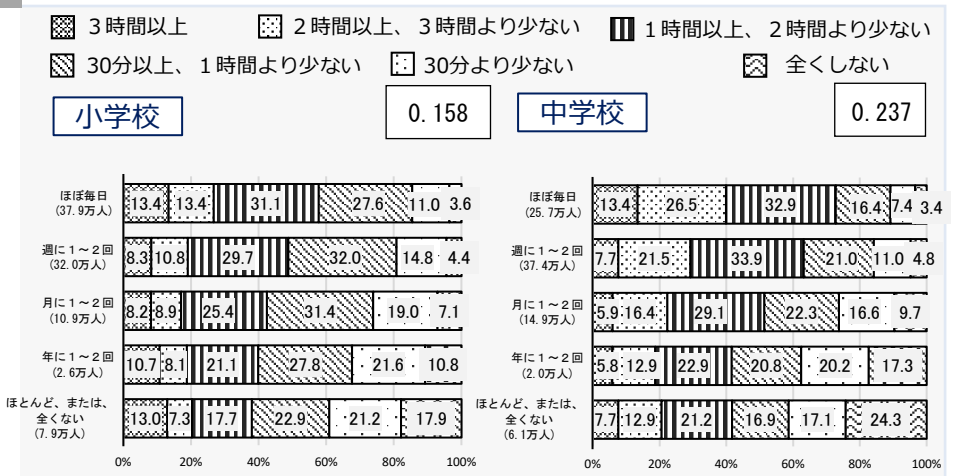
自分が理解したか、何が分かっていないかを確認するために、学習したことを振り返っている。〔32-2〕



クロス集計（児童生徒）

［学校の勉強のことを親や家族と話すこと］×［普段（月曜日から金曜日）の授業時間以外の学習時間］

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。〔23〕

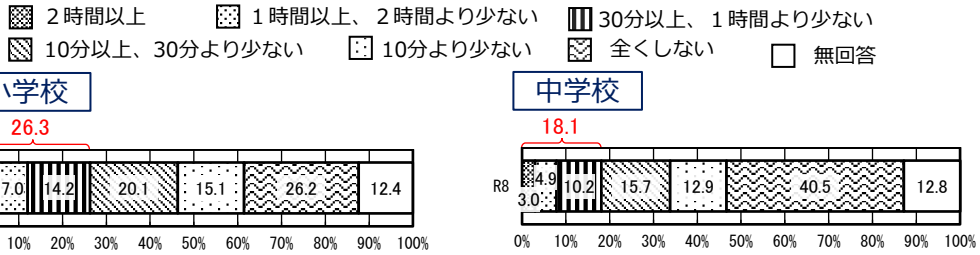


③ 授業外（学校外）での読書の状況

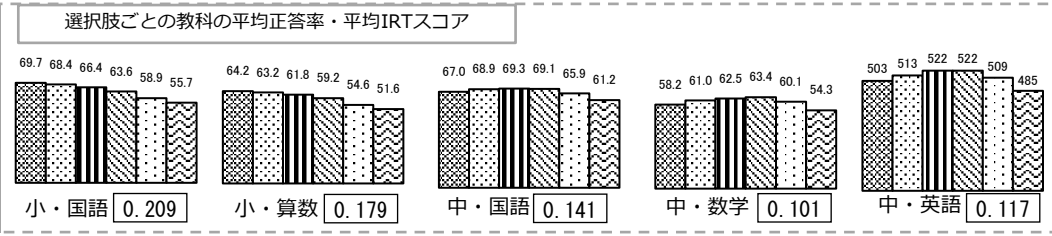
ポイント

- 「読書は好き」「読書は役に立つ」と考えている児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られるが、「読書が好き」と考える児童生徒の割合は減少傾向。
- 児童生徒の「読書は役に立つ」に関する回答と「課題解決に向けた積極性」「地域や社会への寄与意識」に関する回答の間には相関が見られる。

児童〔26〕 生徒〔26〕 学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。

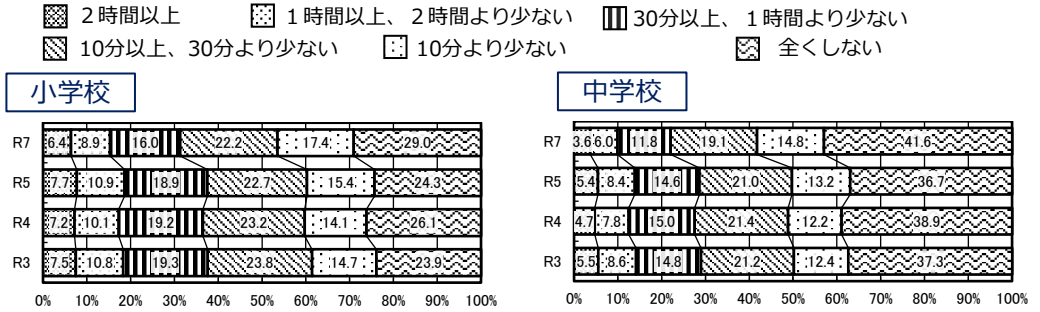


クロス集計

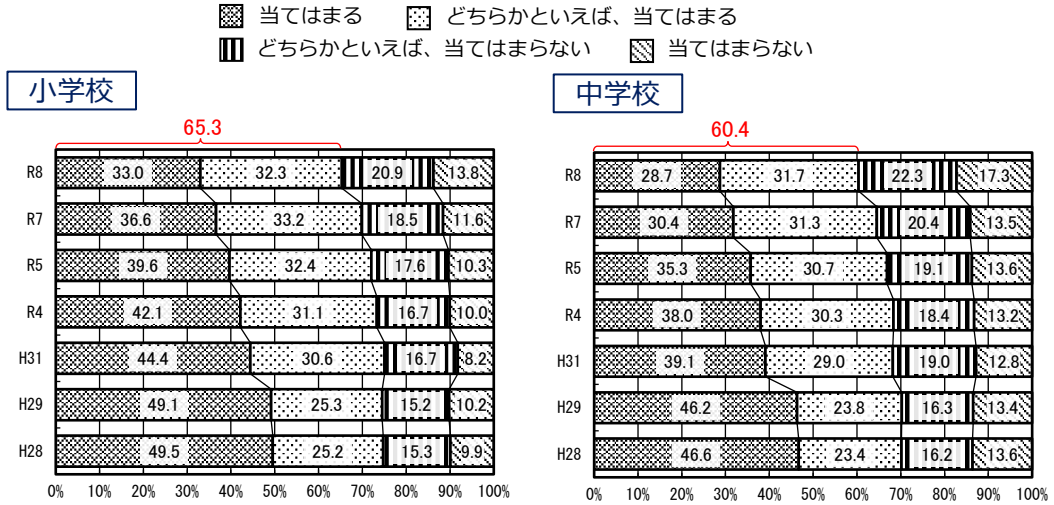


※参考（令和７年度までの調査結果）

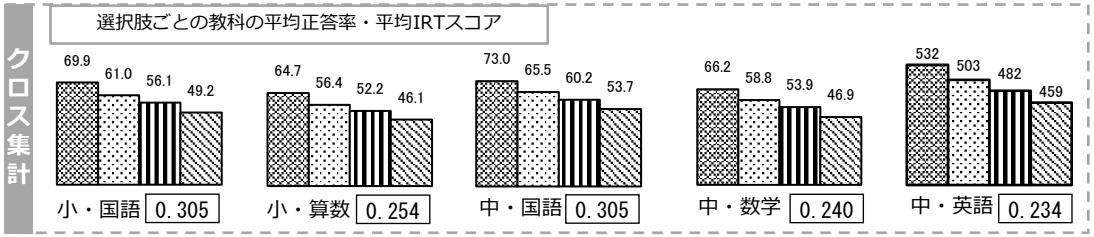
児童質問 生徒質問 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)。



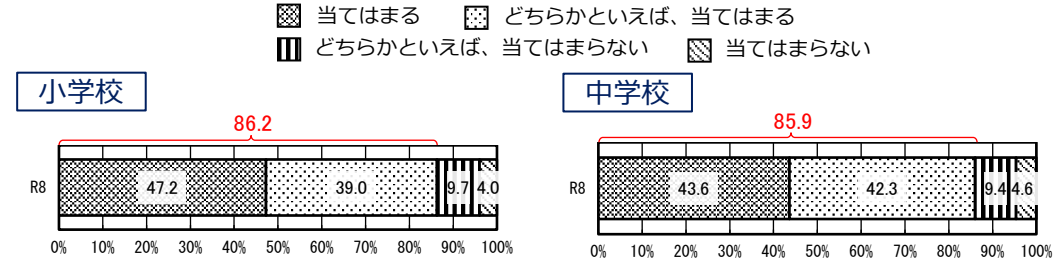
児童〔31-1〕 生徒〔31-1〕 読書は好きですか。



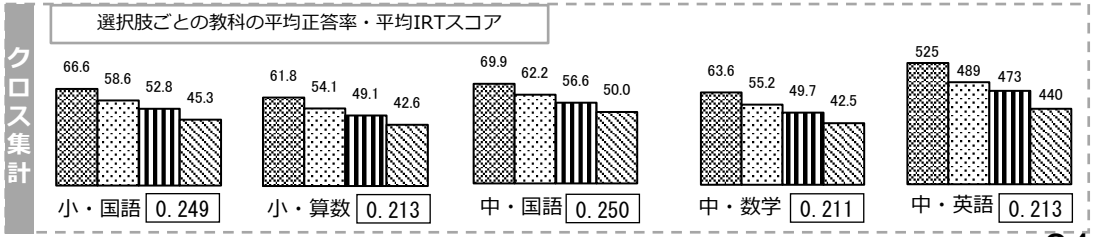
クロス集計



児童〔31-2〕 生徒〔31-2〕 読書は役に立つと思いますか。【新規】



クロス集計



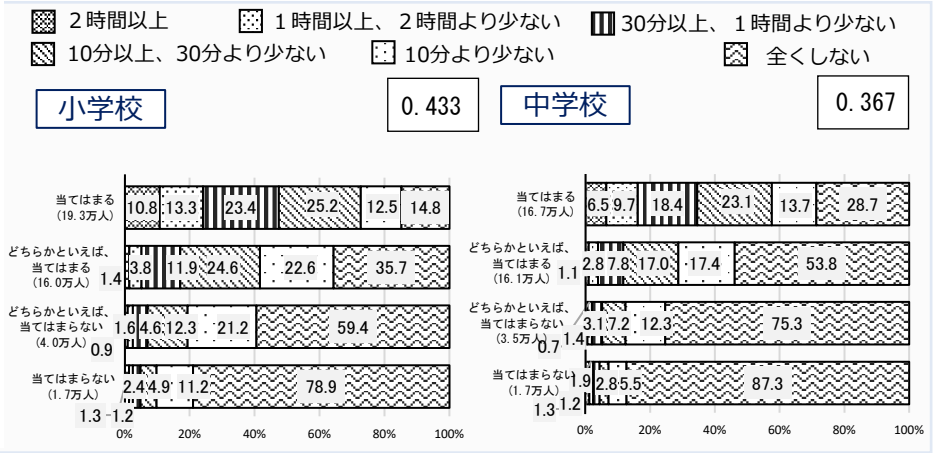
「読書は役に立つ」×「課題解決に向けた積極性」　「地域や社会への寄与意識」

○　児童生徒の「読書は役に立つ」に関する回答と「課題解決に向けた積極性」「地域や社会への寄与意識」に関する回答の間には相関が見られる。読書は役に立つと考えることが、課題解決に向けた積極性や地域・社会への寄与意識に影響を与えている可能性がある。

クロス集計（児童生徒）

［読書は役に立つ］×［読書時間］

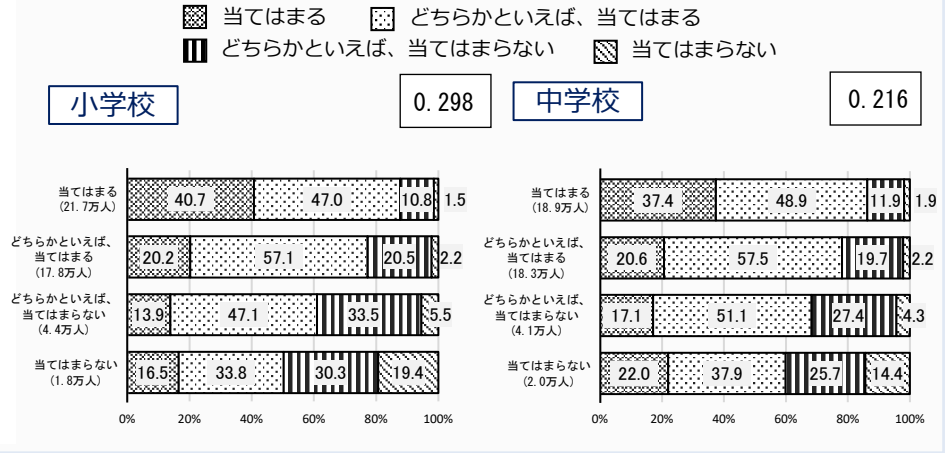
学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。〔26〕



クロス集計（児童生徒）

［読書は役に立つ］×［課題の解決に向けた積極性］

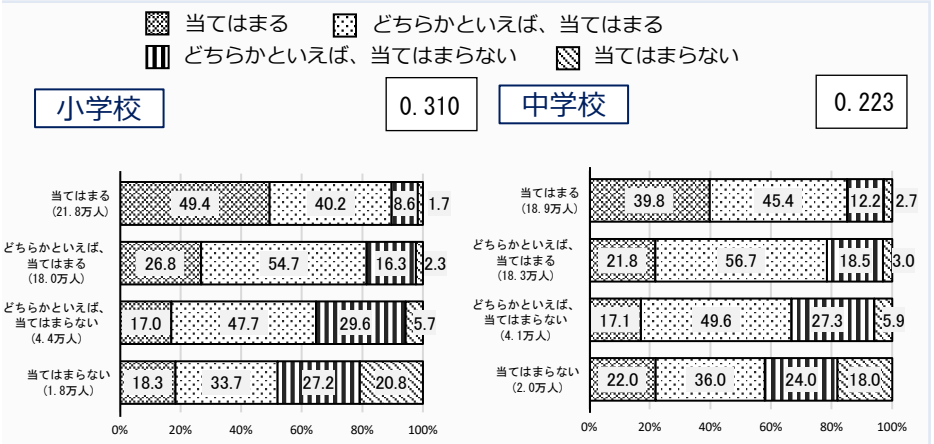
５年生〔１、２年生〕のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。〔39〕



クロス集計（児童生徒）

［読書は役に立つ］×［授業で学んだことを実生活に生かすことができる］

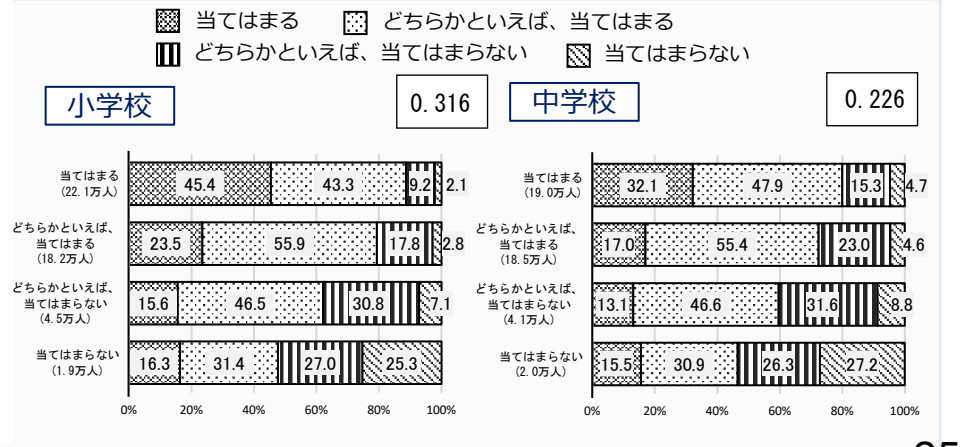
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。〔44〕



クロス集計（児童生徒）

［読書は役に立つ］×［地域や社会への寄与意識］

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。〔33〕

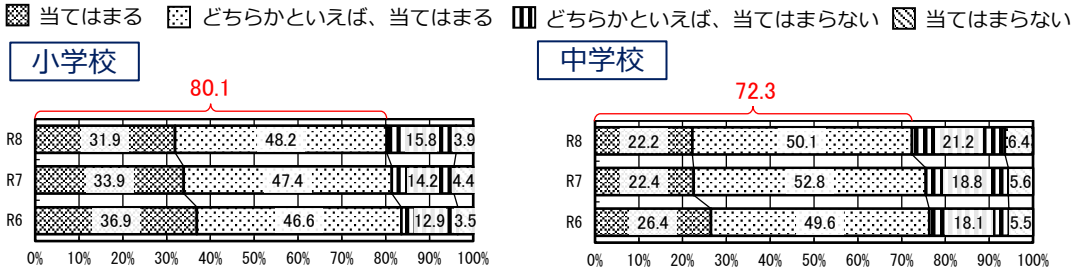


④ 地域や社会にかかわる活動

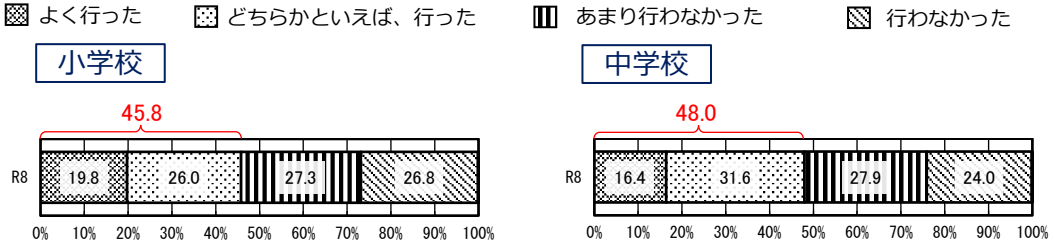
ポイント

- 約７～８割の児童生徒が、地域をよくするために何かしてみたいと思っている。また、そのような児童生徒ほど、学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると考える傾向が見られる。
- 約５割の学校が、コミュニティ・スクール等の取組を活用して、児童生徒が意見表明できる取組を行ったと考えている。また、地域との連携・協働により地域課題の解決等に貢献したと思う学校ほど、教育活動に必要な人的・物的資源等を地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていると考える傾向が見られる。

児童〔33〕
生徒〔33〕
地域をよくするために何かしてみたいと思う。



学校質問
小学校〔78〕
中学校〔86〕
コミュニティ・スクールの仕組みや地域学校協働活動等の取組を活用して、学校の運営や教育活動に関し、児童〔生徒〕が意見を表明することができる取り組みを行いましたか。【新規】

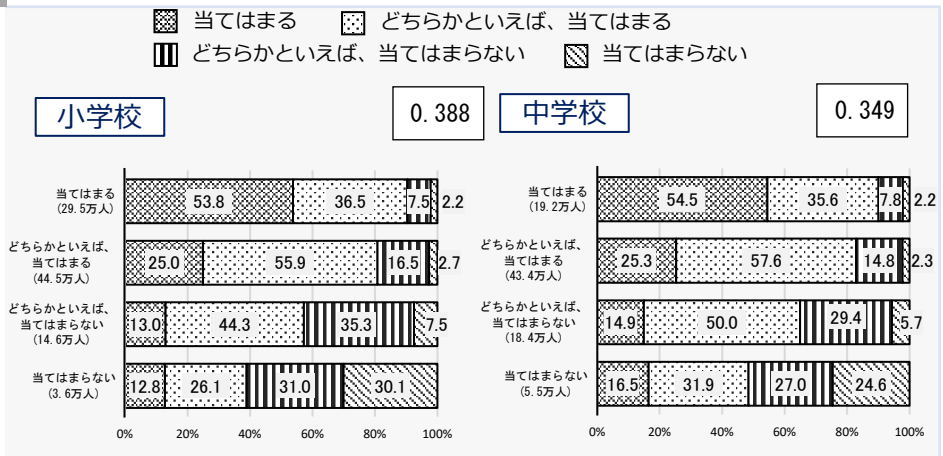


クロス集計（児童生徒）

［地域や社会への寄与意識］×［話合い活動を通じた意思決定による実践］

学級会〔学級活動〕における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。〔50〕

地域をよくするために何かしてみたいと思いますか。〔33〕

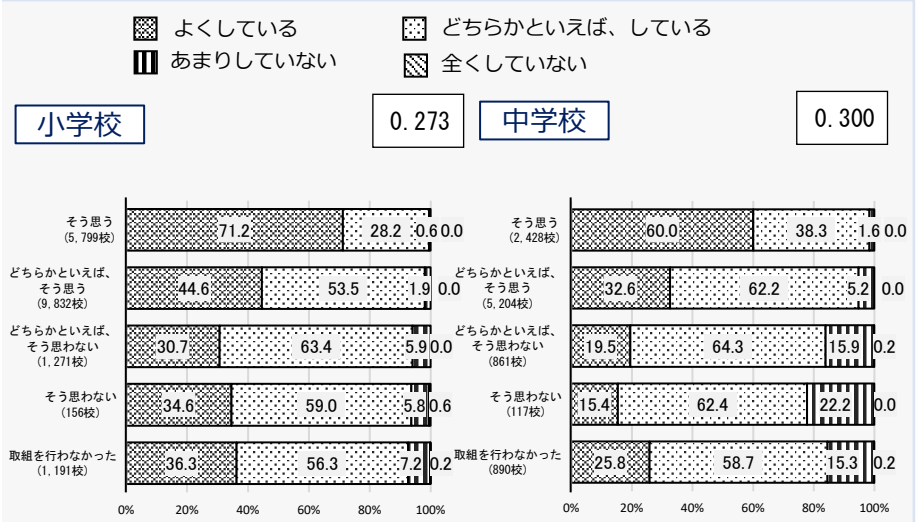


クロス集計（学校質問）

［家庭や地域との連携の効果］×［外部資源の活用を効果的に組み合わせた指導計画の作成］

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか。〔18〕

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、学校教育活動の充実や学校課題の解決だけではなく、地域及び家庭の課題解決や地域活動の担い手育成に貢献していたと思いますか。〔80・88〕



※　相関係数は、児童生徒質問80・88における「取組を行わなかった」の回答を除外して算出

「SNSや動画視聴の長さ」と学力の関係

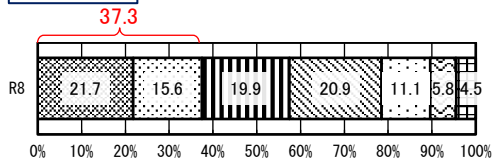
「ICTを活用する自信」と学力の関係

○　SNSや動画視聴等の利用時間が長い児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが低い傾向が見られる。
○　一方で、ICTを活用する自信がある児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。
○　これらの結果から、ICTを受動的に利用するにとどまらず、主体的・能動的に活用できるよう、授業等を通じた情報活用能力を育成することが、学力向上に寄与する可能性が示唆される。

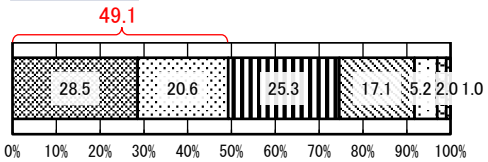
児童〔４〕
生徒〔４〕
普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間を除く）。

４時間以上　３時間以上、４時間より少ない　２時間以上、３時間より少ない
1時間以上、２時間より少ない　30分以上、1時間より少ない　30分より少ない
スマートフォン等を持っていない

小学校

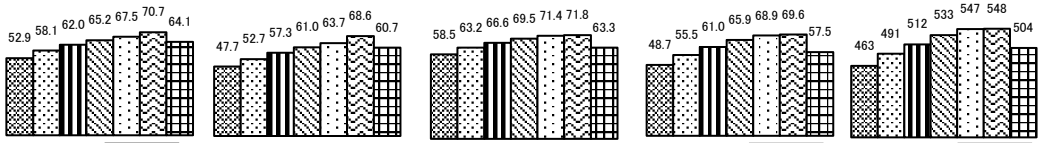


中学校



クロス集計　選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

※　相関係数は「スマートフォン等を持っていない」の回答を除外して算出

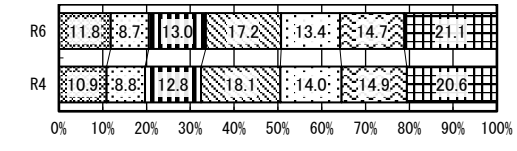


※参考（令和６年度までの調査結果）

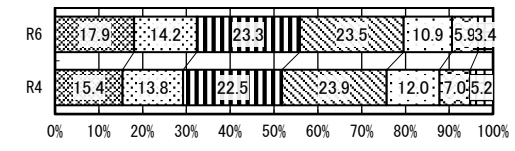
児童質問
生徒質問
普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習やゲームをする時間を除く）。

４時間以上　３時間以上、４時間より少ない　２時間以上、３時間より少ない
1時間以上、２時間より少ない　30分以上、1時間より少ない　30分より少ない
スマートフォン等を持っていない

小学校



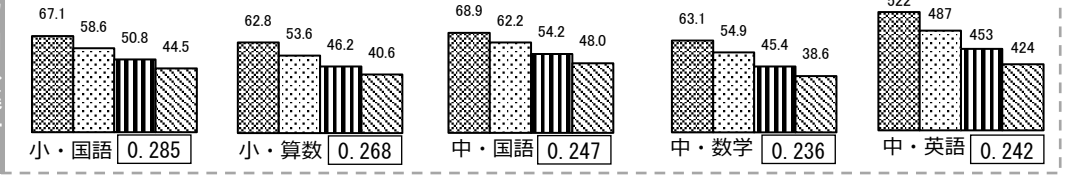
中学校



そう思う　どちらかといえば、そう思う　どちらかといえば、そう思わない　そう思わない

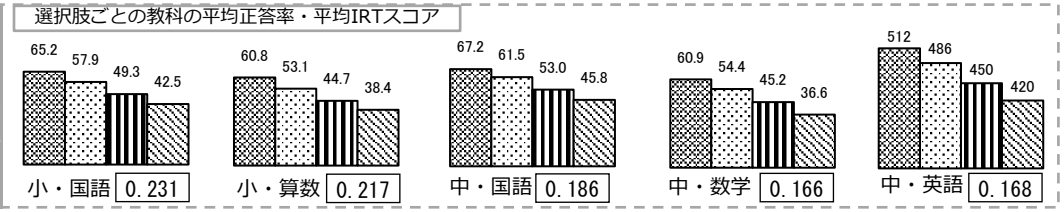
児童〔36-1〕
生徒〔36-1〕
タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか

クロス集計　選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



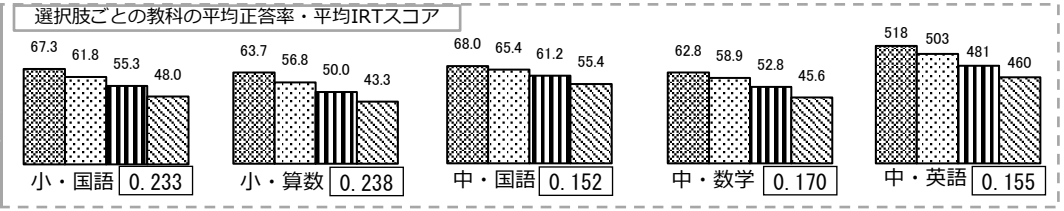
児童〔36-2〕
生徒〔36-2〕
インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。

クロス集計　選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



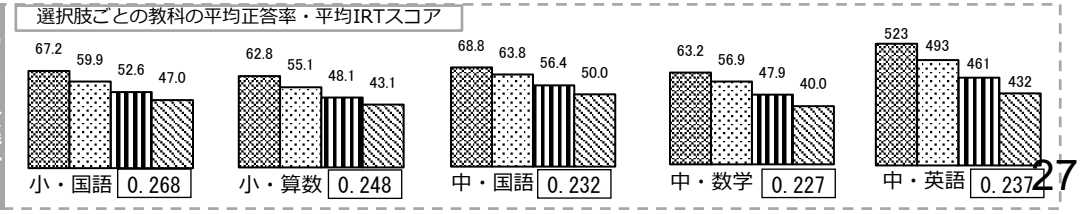
児童〔36-3〕
生徒〔36-3〕
タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。

クロス集計　選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



児童〔36-4〕
生徒〔36-4〕
タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。

クロス集計　選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



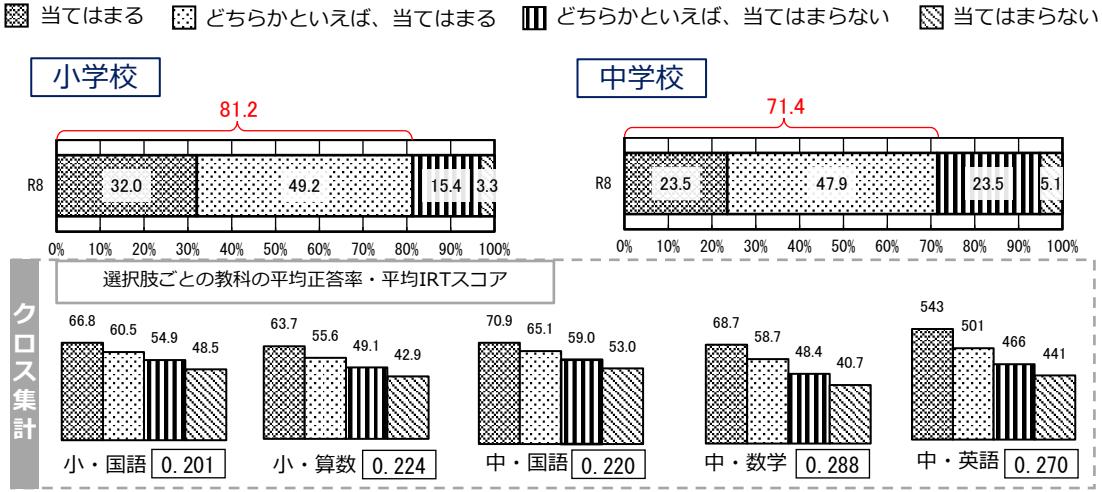
(5) 児童生徒の挑戦心や好奇心、ウェルビーイング等に関する状況

① 挑戦心や好奇心

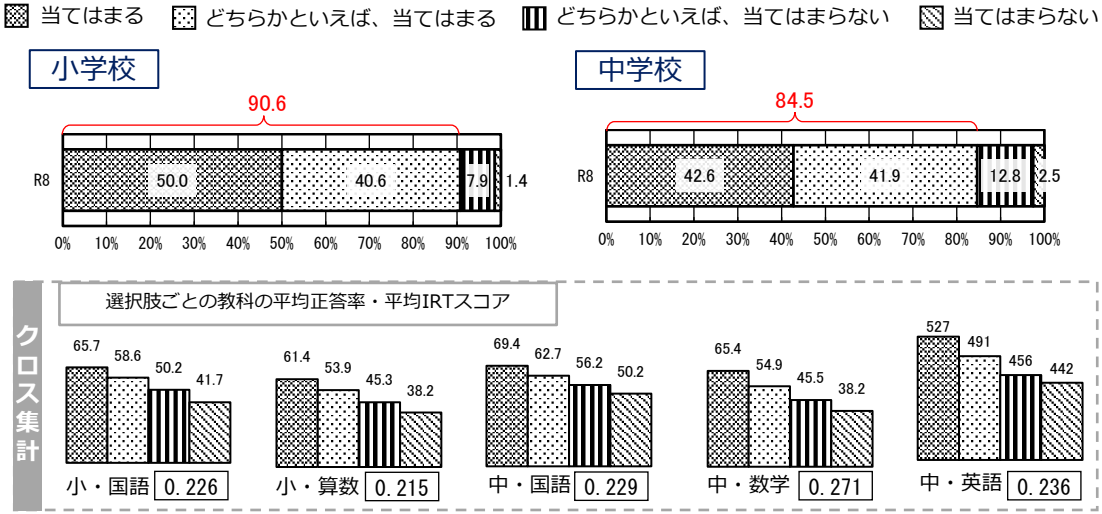
ポイント

- 約７～９割の児童生徒が、挑戦心や好奇心に関する質問に肯定的に回答している。また、肯定的に回答した児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。
- 総合的な学習の時間や学級活動における学習活動、学びの主体的な調整に関する回答と「挑戦心・好奇心」に関する回答の間には相関が見られる。

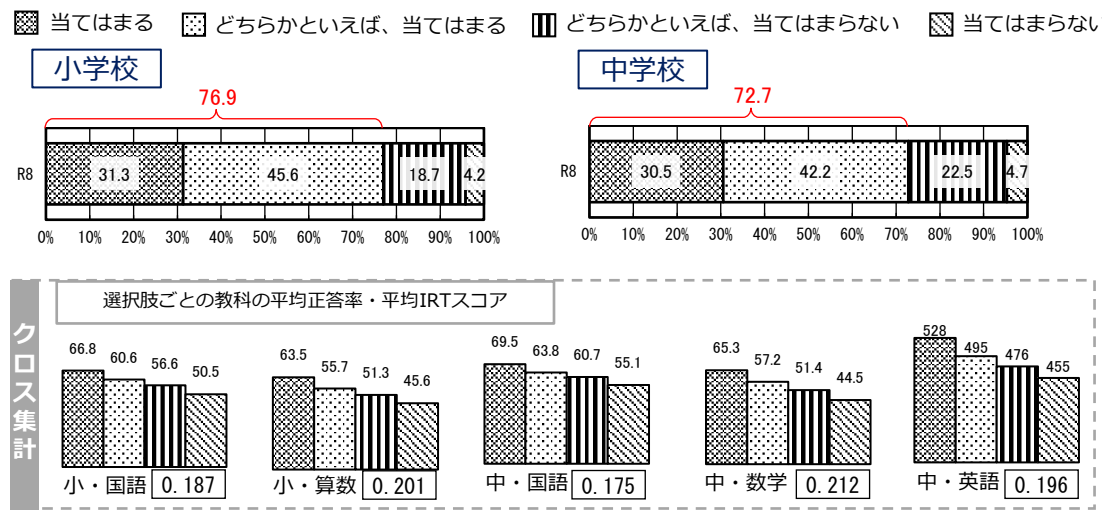
児童〔18-2〕 生徒〔18-2〕 課題が難しくなると、さらに努力していますか。【新規】



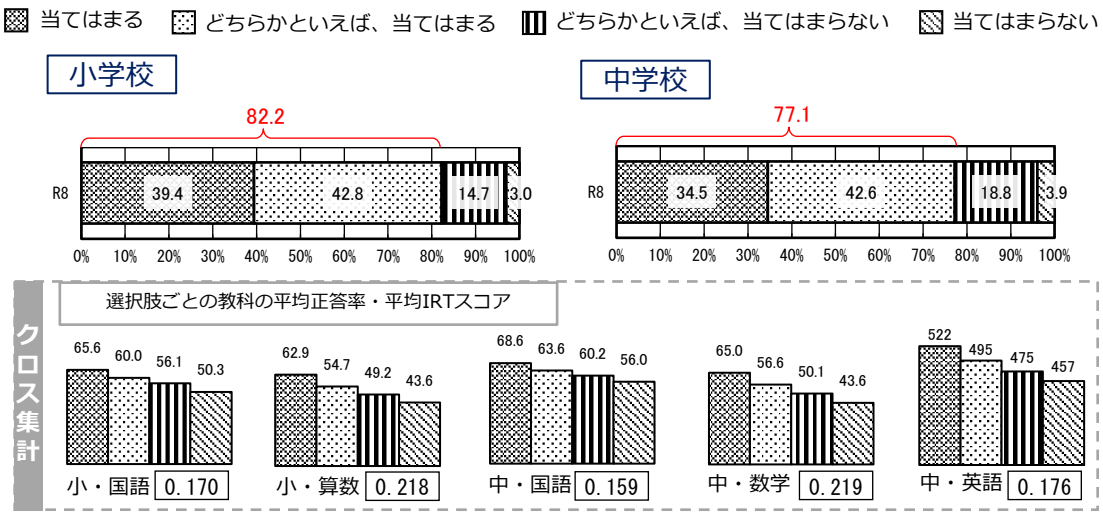
児童〔18-1〕 生徒〔18-1〕 課題を終えるまでやり通していますか。【新規】



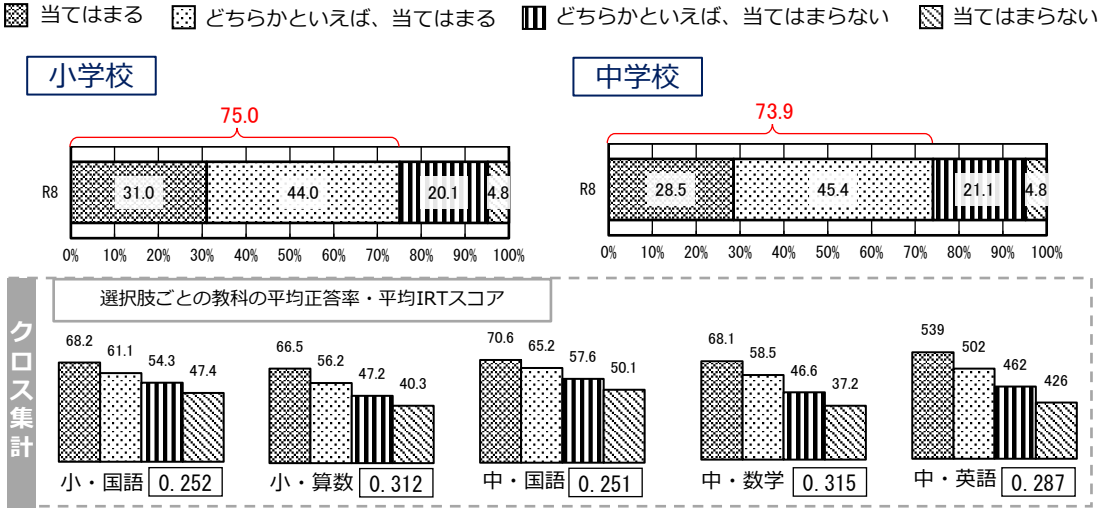
児童〔18-3〕 生徒〔18-3〕 物事をじっくり考えることは好きですか。【新規】



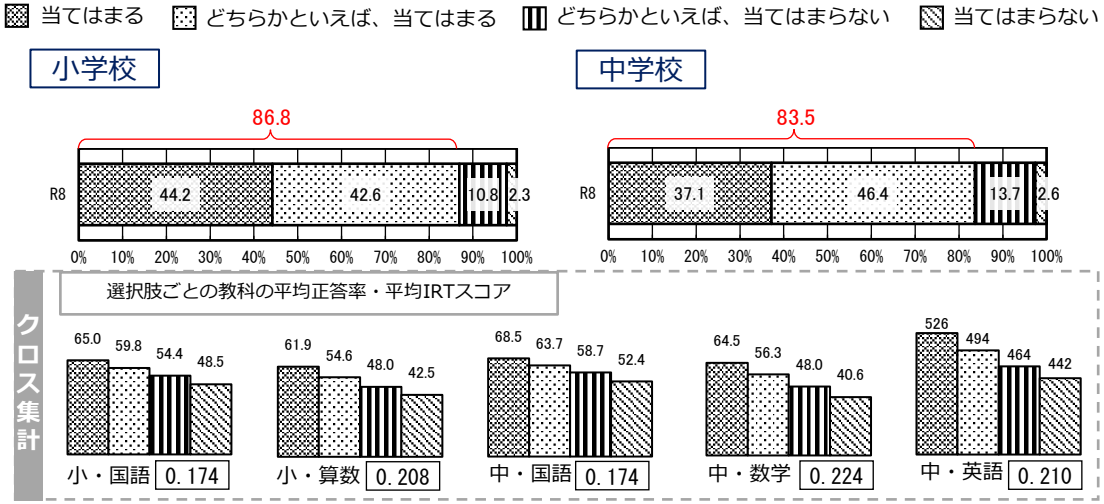
児童〔19-1〕 生徒〔19-1〕 物事の仕組みを知ることは好きですか。【新規】



児童〔19-3〕 生徒〔19-3〕 問題の解決策を見つけることは好きですか。【新規】



児童〔19-2〕 生徒〔19-2〕 新しいことを学ぶのは好きですか。【新規】



「学習活動」×「挑戦心・好奇心」

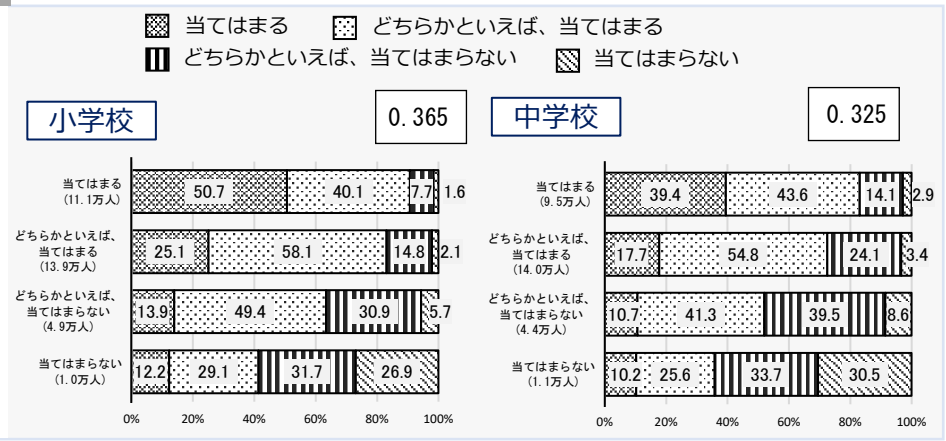
○　「総合的な学習の時間における学習活動に取り組むこと」「学級活動における話合いを生かして自分が努力すべきことを決めて取り組むこと」への回答と「挑戦心・好奇心」に関する回答の間には相関が見られ、相互に影響を与えている可能性がある。

クロス集計（児童生徒）

［総合的な学習の時間の充実］×［挑戦心］

課題が難しくなると、さらに努力していますか。〔18－２〕

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。〔47〕



	課題は終えるまでやり通していますか。〔18-1〕		課題が難しくなると、さらに努力していますか。〔18-2〕		物事をじっくり考えることは好きですか。〔18-3〕	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。〔47〕	0.313	0.293	0.365	0.325	0.322	0.246
学級会〔学級活動〕における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。〔50〕	0.298	0.279	0.383	0.331	0.286	0.206

	物事の仕組みを知ることは好きですか。〔19-1〕		新しいことを学ぶのは好きですか。〔19-2〕		問題の解決策を見つけることは好きですか。〔19-3〕	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。〔47〕	0.327	0.258	0.357	0.316	0.386	0.327
学級会〔学級活動〕における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。〔50〕	0.279	0.216	0.336	0.298	0.340	0.287

「学びの主体的な調整」×「挑戦心・好奇心」

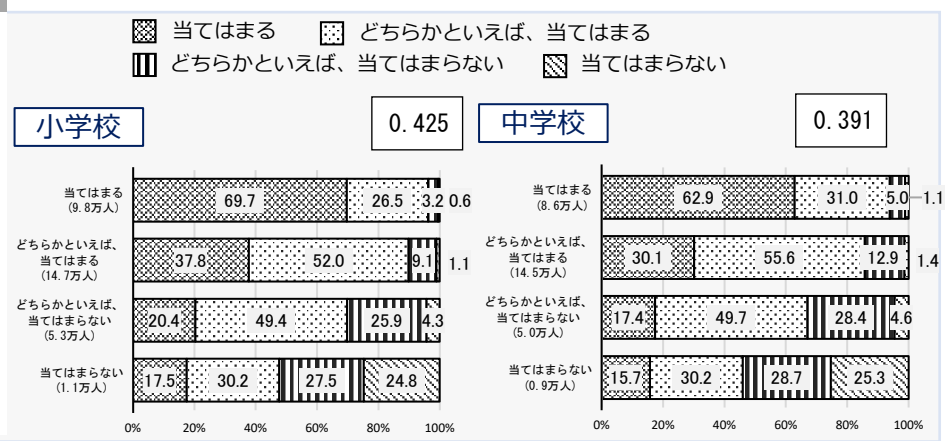
○　「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに自分で学び方を考え工夫すること」「学習内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し次の学習につなげること」への回答と「挑戦心・好奇心」に関する回答の間には相関が見られ、相互に影響を与えている可能性がある。

クロス集計（児童生徒）

［よく分からなかった点を見直し次の学習につなげた］×［新しいことを学ぶのは好き］

新しいことを学ぶのは好きですか。〔19－２〕

学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。〔43〕



	課題は終えるまでやり通していますか。〔18-1〕		課題が難しくなると、さらに努力していますか。〔18-2〕		物事をじっくり考えることは好きですか。〔18-3〕	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。〔22〕	0.371	0.345	0.496	0.469	0.418	0.354
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。〔43〕	0.380	0.377	0.488	0.476	0.364	0.294

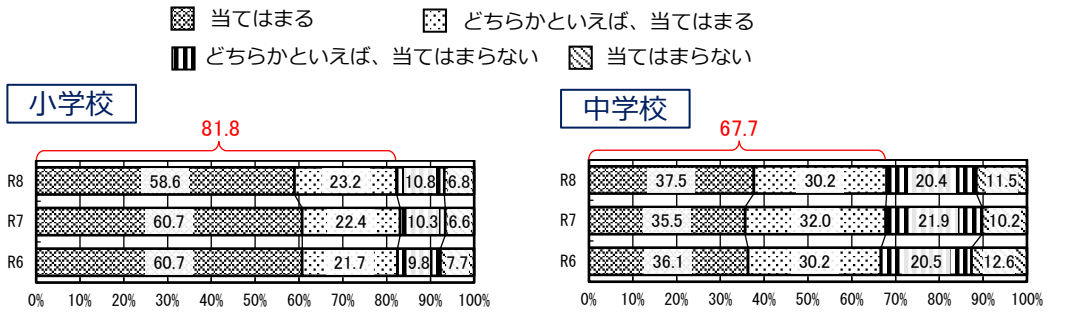
	物事の仕組みを知ることは好きですか。〔19-1〕		新しいことを学ぶのは好きですか。〔19-2〕		問題の解決策を見つけることは好きですか。〔19-3〕	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。〔22〕	0.407	0.366	0.445	0.424	0.485	0.452
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。〔43〕	0.355	0.301	0.425	0.391	0.446	0.403

② ウェルビーイング

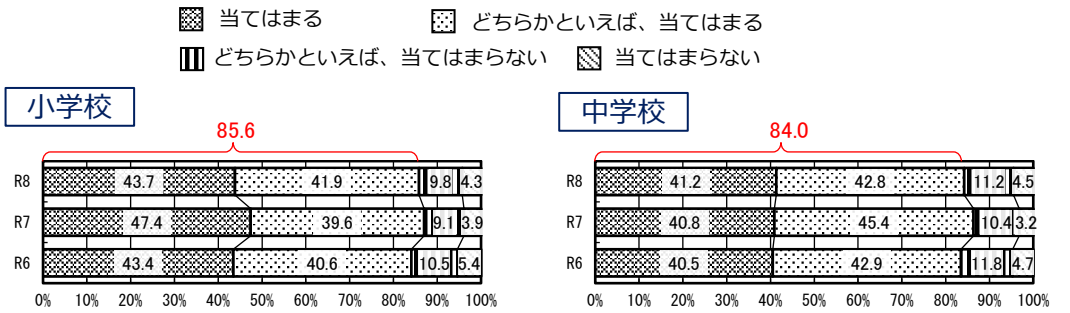
ポイント

- 約７～９割の児童生徒が、「自分にはよいところがある」「先生は自分のよいところを認めてくれている」「将来の夢や目標を持っている」「友達関係に満足している」「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある」と思っている。
- 学校における先生や友達とのかかわりに関する回答と「ウェルビーイング」に関する回答の間には相関が見られる。

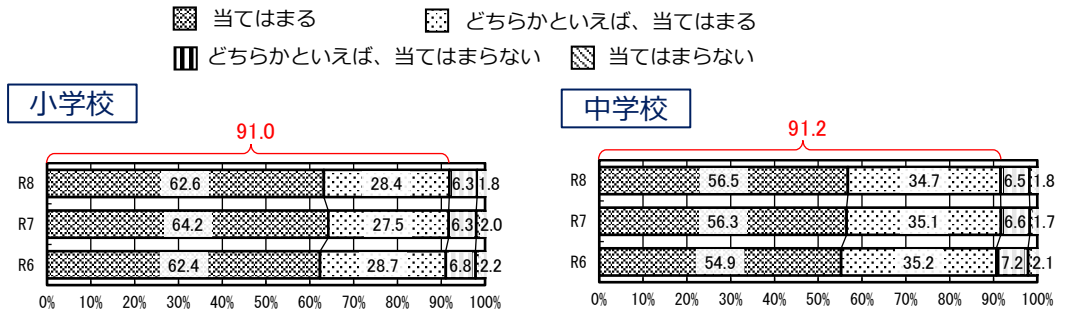
児童〔10〕生徒〔10〕 将来の夢や目標を持っていますか。



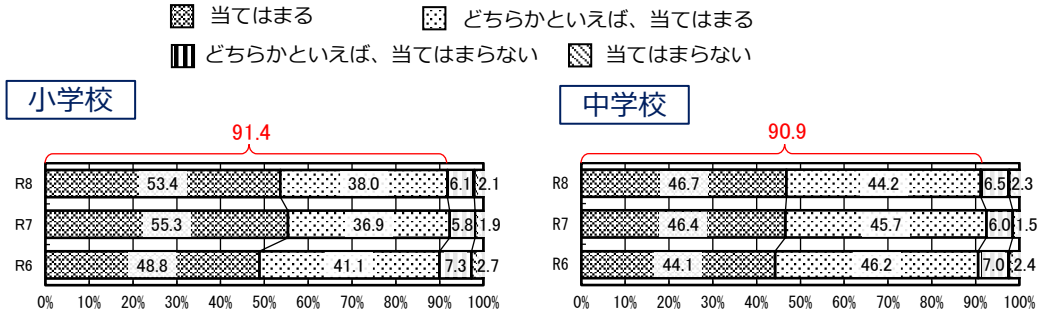
児童〔8〕生徒〔8〕 自分には、よいところがあると思いますか。



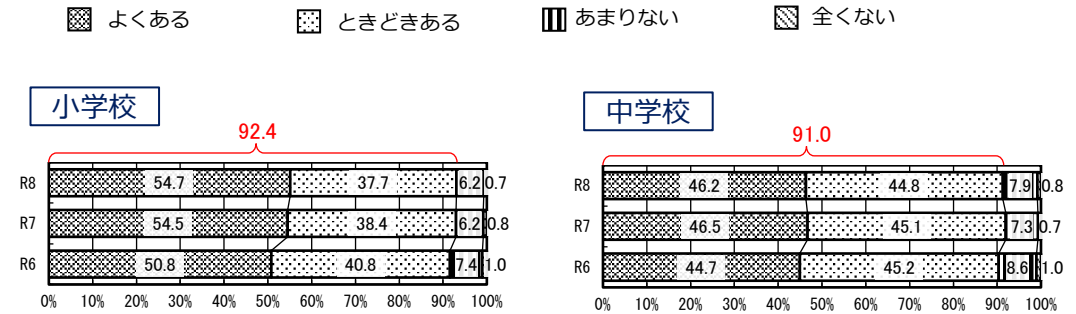
児童〔17〕生徒〔17〕 友達関係に満足していますか。



児童〔9〕生徒〔9〕 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



児童〔21〕生徒〔21〕 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。



「学校内での人とのかかわり」×「児童生徒のウェルビーイング」

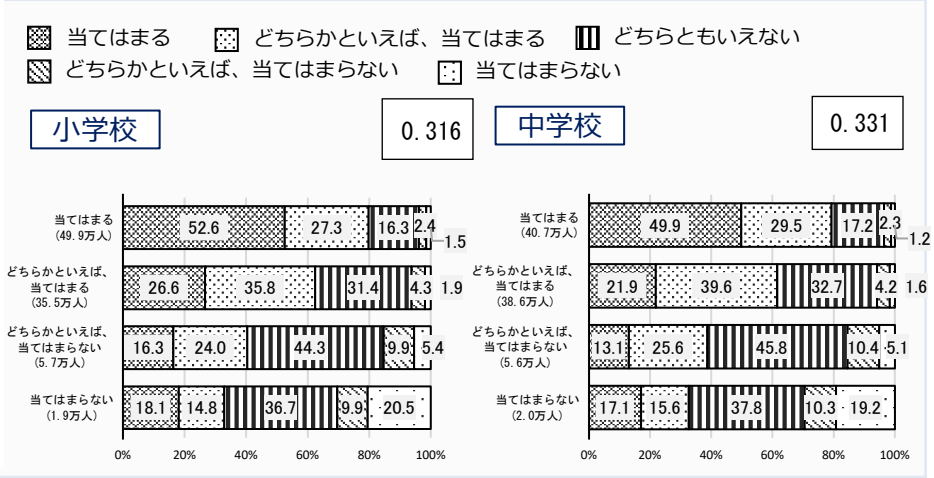
○　学校における先生や友達とのかかわりに関する回答と「ウェルビーイング」に関する回答の間には相関が見られ、相互に影響を与えている可能性がある。

クロス集計（児童生徒）

［先生は、あなたのよいところを認めてくれる］×［心理的安全性］

あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。〔20〕

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。〔9〕

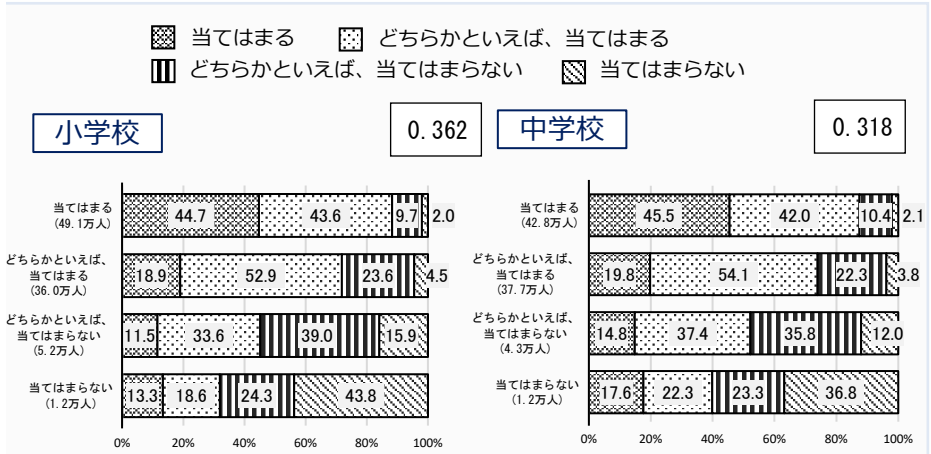


クロス集計（児童生徒）

［協働的な学び］×［自分と違う意見について考えるのは楽しい］

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。〔16〕

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。〔46〕



【ウェルビーイングについて、その他の項目についての相関係数】

	自分には、よいところがあると思いますか。〔8〕		人が困っているときは、進んで助けていますか。〔11〕		困りごとや不安がある時に先生が学校にいる大人にいつでも相談できますか。〔13〕		学校に行くのは楽しいと思いますか。〔15〕		自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。〔16〕		あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。〔20〕	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。〔9〕	0.407	0.468	0.253	0.268	0.327	0.399	0.337	0.355	0.278	0.255	0.316	0.331
先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。〔45〕	0.192	0.189	0.224	0.201	0.284	0.316	0.302	0.284	0.273	0.253	0.297	0.308
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。〔46〕	0.295	0.283	0.372	0.345	0.277	0.289	0.348	0.369	0.362	0.318	0.325	0.349

学校施設の充実と児童生徒・教職員のウェルビーイング向上

○　約８割の学校が、学校施設全体として、児童生徒にとって学びや生活がしやすく居心地がよいか、教職員にとって働きやすく居心地がよいか、という質問に肯定的に回答している。

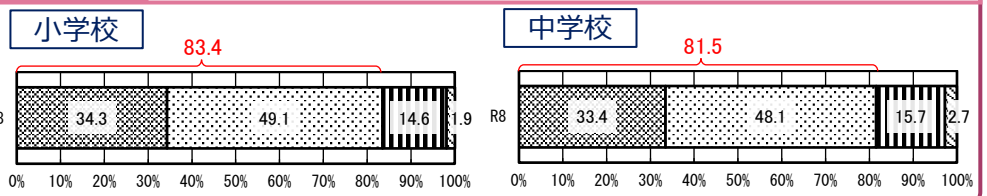
○　学校施設が児童生徒にとって居心地がよいと思っている学校ほど、児童生徒が熱意をもって勉強していると思っていると回答する割合が高い。

○　学校施設が教職員にとって居心地がよいと思っている学校ほど、学校運営上の課題対応に当たり、各教職員の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていると回答する割合が高い。学校施設の居心地のよさが、教職員の適切な役割分担や連携協働に影響を与えている可能性がある。

そう思う　どちらかといえば、そう思う　どちらかといえば、そう思わない　そう思わない

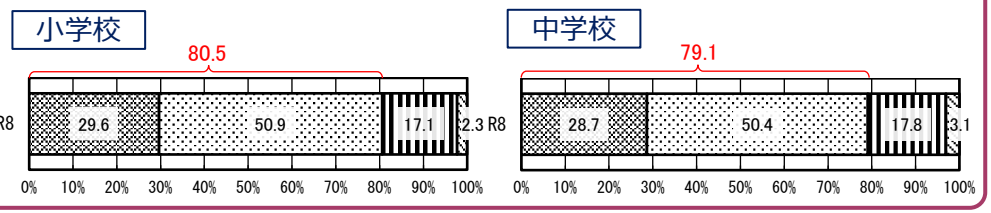
学校質問
小学校〔24〕
中学校〔24〕

児童〔生徒〕にとって、学校施設全体として、児童〔生徒〕が学びや生活がしやすく、居心地のよい建物だと思いますか。【新規】



学校質問
小学校〔25〕
中学校〔25〕

教職員にとって、学校施設全体として、教職員が働きやすく、居心地のよい建物だと思いますか。【新規】

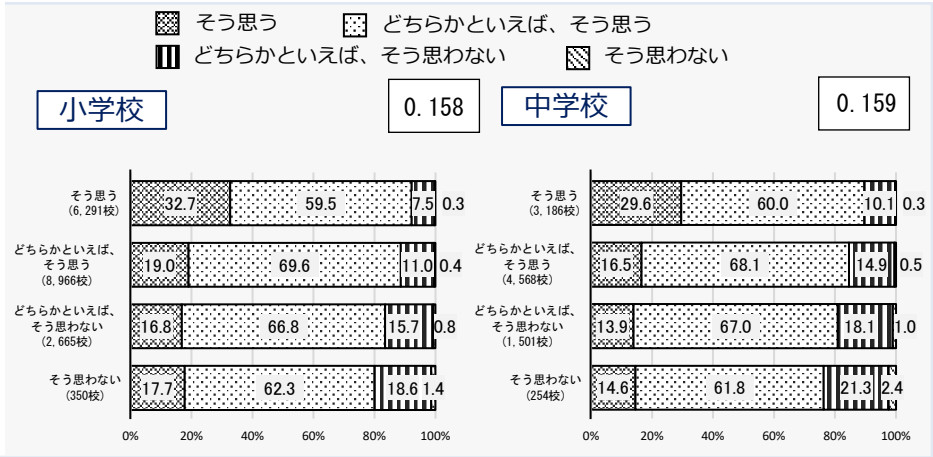


クロス集計（学校質問）

［児童生徒にとって、居心地のいい建物］×［児童〔生徒〕が熱意をもって学ぶ］

調査対象学年の児童〔生徒〕は、熱意をもって勉強していると思いますか。〔７〕

児童〔生徒〕にとって、学校施設全体として、児童生徒が学びや生活がしやすく、居心地のよい建物だと思いますか。〔24〕

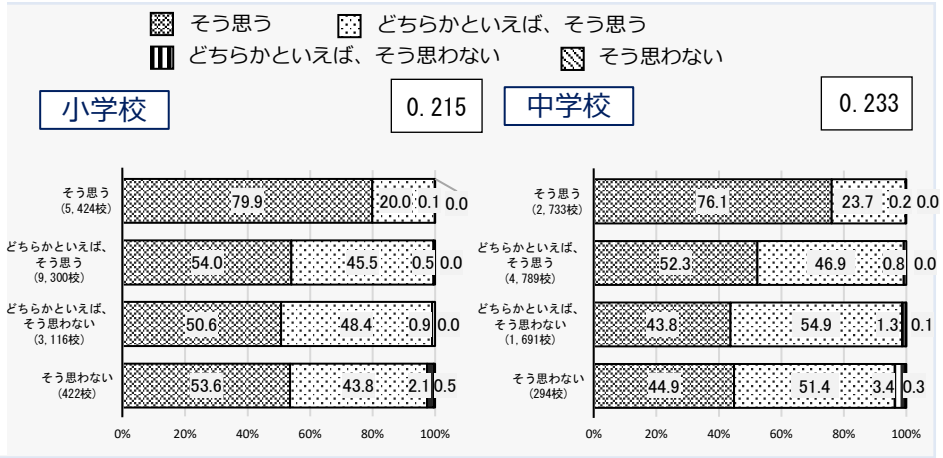


クロス集計（学校質問）

［教職員にとって、居心地のいい建物］×［教職員の専門性を生かせるような適切な役割分担や連携協働］

学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員（支援スタッフを含む）の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか。〔19〕

教職員にとって、学校施設全体として、教職員が働きやすく、居心地のよい建物だと思いますか。〔25〕



3 令和９年度以降の調査実施について

これからの全国学力・学習状況調査

- **学習指導要領**の趣旨の実現、全国の自治体や国における教育施策の改善に引き続き寄与
- **GIGAスクール構想**によりCBTやIRTの導入が実現し、児童生徒一人一人への学習指導の充実に向けた活用の可能性が拡大

全国学力・学習状況調査により
我が国の学力水準の維持・向上が図られる

水色：毎年悉皆での実施により実現

課題把握・フィードバック
全ての子供たちの課題を把握・返却し、学びを改善

授業改善
調査問題・結果分析を通じて全ての学校で授業改善

学びの保障
不登校、病気療養中の児童生徒などでも柔軟に学校外からアクセス

ICTによる情報活用
CBTで実施することで、ICTを活用した授業で身に付けた力をより多面的に測定

データの拡大・精度向上
IRT（項目反応理論）を活用し幅広い領域で経年変化も分析

データ利活用
解答データをビッグデータとして蓄積・利活用

学習指導要領

学習指導要領の理念の具体化
調査問題を通じて育成を目指す資質・能力を具体化・発信

学習指導・施策改善のエビデンス
調査結果から把握された課題等を各学校における学習指導の改善や国・自治体における施策の改善に反映

全国学力・学習状況調査

GIGAスクール構想（デジタル学習基盤の整備）

✓ 児童生徒の端末　✓ 通信ネットワーク　✓ CBTシステム(MEXCBT)

桃色：CBTによりさらに改善・強化

CBTやIRTを活用する意義

（1）悉皆調査においてCBTを活用する意義

①ビッグデータとしての蓄積

- 現行では記述式問題の解答データはスキャンによりデータ化して処理しているが、CBT化により、初めから機械可読かつ軽量なデータとして収集できる。

②身に付けた力の多面的な測定

- マルチメディア（動画、音声等）や様々なツール（表計算機能等）の利用など、多様な方法での出題・解答が可能となり、英語の「話す」力や、ICTを活用した授業や理科の観察・実験などで児童生徒がICTを活用した授業で身に付けた力を、より多面的に測定できる。
- 学校において何らか配慮を要する児童生徒や不登校等の状況にある児童生徒への柔軟な対応を拡大できる。

③負担軽減（電子データでの問題・解答の配信回収）

- 印刷、配送、回収に要する経費や環境負荷の削減。
- 調査問題の厳重な保管などの学校の負担の軽減。
- 児童生徒数の増減への柔軟な対応が可能になる。
- 自動採点の導入が可能になり、より効率的な採点を実現。

④多様な学び方に柔軟に対応

- 学校外での実施ができるようになることにより、不登校等の児童生徒についても、それぞれの状況に応じて、寄り添った調査が可能になる。

（2）悉皆調査において項目反応理論（IRT）を活用する意義

①調査日の複数設定、各児童生徒が異なる問題を解く設計を可能とする。

- 複数の問題セットによる調査とIRTの導入による集計・分析により、調査を異なる日時に実施しても同じ条件での実施とみなすことが可能。

※ネットワーク等のトラブルを回避するために、日程・時間帯の分散が必要。

②各児童生徒が異なる問題を解く設計にできることにより、今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能になる。

- IRTを活用することで、異なる調査問題に解答した学校や児童生徒同士の結果を比較できるため、一度の調査で幅広く出題することが可能になり、得られるデータの幅が広がる。
- 教委・学校や児童生徒にもより細やかなフィードバックが可能。

※CBT導入により、複数の問題セットを児童生徒ごとに割り当てることも容易になる。

③学力の経時変化を各教育委員会・学校でも把握できる。

- 問題を一部非公開とし、次年度以降も出題する設計により、各教育委員会・学校でも年度をまたいで児童生徒の学力を比較可能。

CBTやIRTの導入により、悉皆調査の活用可能性が広がる

国における活用の充実

全国的な学力・学習状況をより精緻に把握し、教育施策の検証・改善を一層充実することができる。

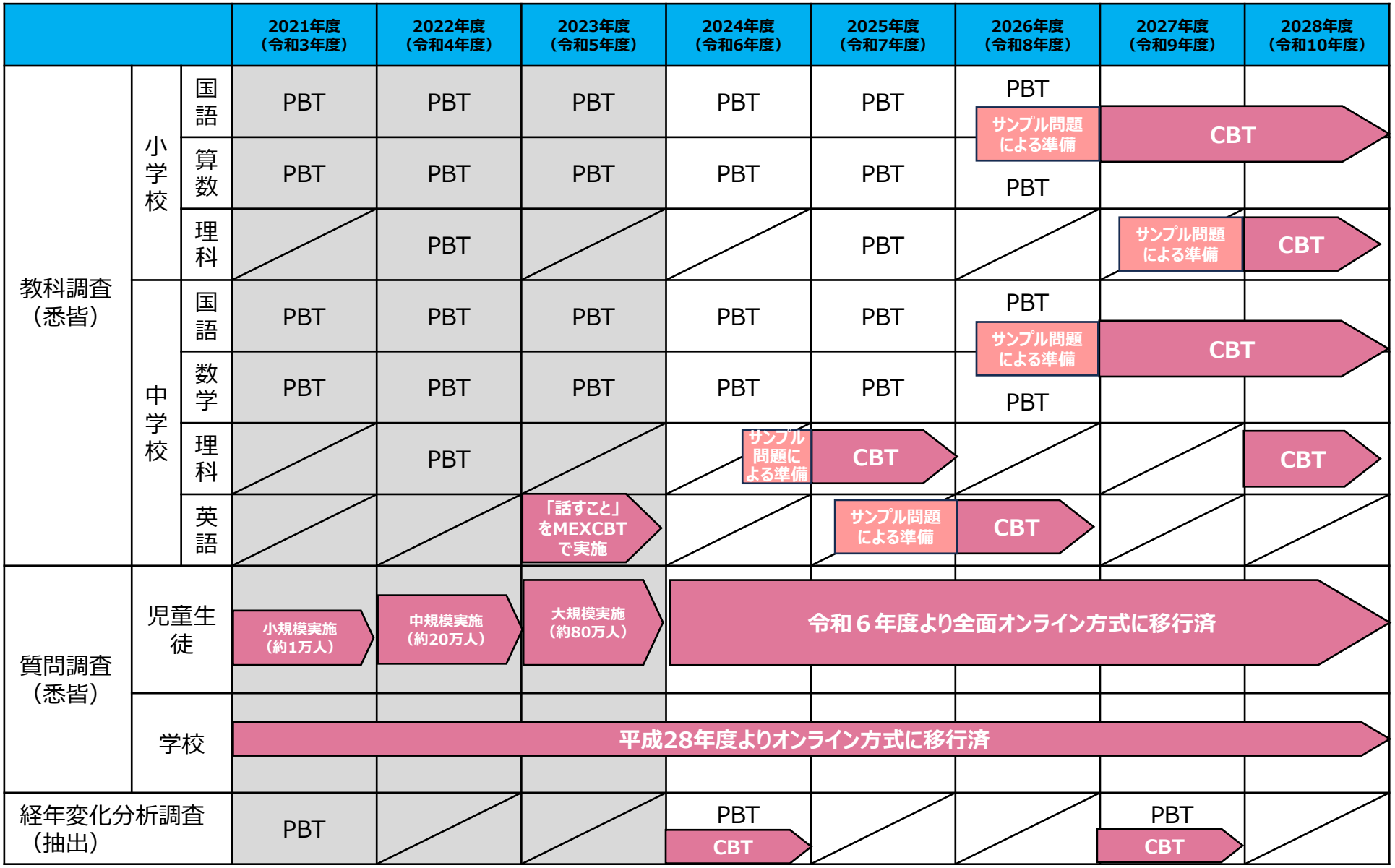
教育委員会・学校における活用の充実

自治体の傾向や経年変化がより細やかに分かるようになり、授業改善や教員研修等を充実させることができる。

自治体独自の学力調査との連携

独自の調査を実施する自治体が、国の調査と連携させて学習状況を把握しようとするような場合に、どのような支援を行うニーズがあると考えられるか検討する。

今後のCBT化の工程表（案）



※ 調査設計や出題、結果返却については、全国学力・学習状況調査の目的を今後より確実に達成する観点から、不断の見直しを続けていく。

令和９年度全国学力・学習状況調査について（予定）

１．調査内容

本体調査（悉皆）	・教科に関する調査（国語、算数・数学） ・質問調査（児童生徒質問調査、学校質問調査）
経年変化分析調査（抽出）	・教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）
保護者に対する調査（抽出）	・児童生徒の家庭状況、教育に関する考え方等に関する質問調査

２．本体調査の調査事項・日程

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th rowspan="2">調査事項</th><th rowspan="2">方式</th><th colspan="2">日程</th></tr>
<tr><th>通常実施</th><th>後日実施</th></tr>
<tr><td rowspan="2">教科
調査</td><td>（小）国語・算数</td><td rowspan="2">オンライン
（MEXCBT）</td><td>4/20（火）～23（金）
予備日：4/26（月）～28（水）</td><td>4/30（金）～5/10（月）
(学校外でオンライン実施可)</td></tr>
<tr><td>（中）国語・数学</td><td>4/13（火）～16（金）
予備日：4/19（月）～21（水）</td><td>4/22（木）～5/10（月）
(学校外でオンライン実施可)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">質問
調査</td><td>（小）児童質問
（生活習慣、学習環境等）</td><td rowspan="2">オンライン
（MEXCBT）</td><td>4/20（火）～5/10（月）</td><td rowspan="2">調査実施日翌日～5/10（月）
(学校外でオンライン実施可)</td></tr>
<tr><td>（中）生徒質問
（　　〃　　）</td><td>4/13（火）～4/30（金）</td></tr>
<tr><td>学校質問
（指導方法、条件整備状況等）</td><td>オンライン</td><td colspan="2">4/1（木）～4/23（金）</td></tr>
</table>

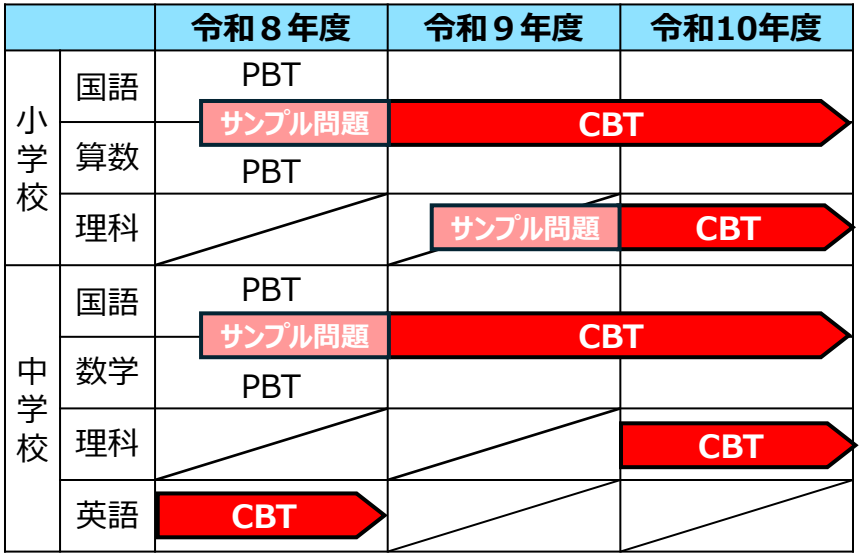
※　後日実施の期間は、登校困難、欠席、技術的トラブル等の事情に応じ、**学校外（自宅、病院、教育支援センター等）**でオンライン実施可。

全国学力・学習状況調査のCBT化により、学校外からも参加できます

この資料は、全国学力・学習状況調査へのCBT方式の導入によって拡大する、学校外での調査実施に関するものです。
本資料の内容を、教育支援センター等の関係者に共有いただけると幸いです。

- 全国学力・学習状況調査では、端末・ネットワークを用いるCBT（Computer-based Testing）方式を順次導入しています。
- 令和８年度調査では、中学校英語、小・中学校児童生徒質問調査を、CBTで実施しました。
- **令和９年度調査からは、小学校・中学校の全教科をCBTで実施**します。
- 一人一台端末の活用により、電子データにより問題・解答を配信・回収することが可能となるため、CBTで実施する調査は、学校での実施が困難な児童生徒に対して、**自宅、病院、教育支援センター等、学校外において後日実施することも可能**です。

CBT化の工程表



児童生徒がそれぞれの状況に応じて柔軟に調査に参加することができるよう、
教育委員会・学校と保護者・病院・教育支援センター等で連携いただけますよう、お願いします。

令和９年度調査や全国学力・学習状況調査のCBT化の詳細については、下記サイトから御確認いただけます。

- 令和９年度の調査実施について（主な通知・事務連絡を随時掲載）
  https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/1417152_00017.htm
- 今後の全国学力・学習状況調査(悉皆調査)のCBTでの実施について
  https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1421443_00005.htm

全国学力・学習状況調査におけるIRTスコア・IRTバンドについて

IRTスコア

IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、**500を基準にした得点**で表すものです。

（各教科にCBT・IRTを導入する年（中学校理科：R7、中学校英語：R8、国語、算数・数学：R9）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。）

IRTバンド

IRTスコアを**1～5の5段階**に区切ったものです。3 を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

（各教科にCBT・IRTを導入する年（中学校理科：R7、中学校英語：R8、国語、算数・数学：R9）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。）

※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

※IRTバンドをIRTスコアに換算すると、およそ以下のような対応関係になります。

IRTバンド	1	2	3	4	5
IRTスコア範囲	~350	350~450	450~550	550~650	650~

※非公開問題は、国や自治体等の状況を把握することを主目的とする出題です。このため、個々の問題の内容や正誤はフィードバックされませんが、IRTスコア・IRTバンドの算出に使用されます。

「中学校英語」 IRT分析の結果

※　IRTスコア及びIRTバンドについては、4技能のデータを基に算出した全国値を掲載している。

IRTスコア全国結果

	平均IRTスコア	第３四分位	第２四分位	第１四分位	標準偏差
全国(国公私)	499(※１)	575	498	422	108.1(※２)

(※１)IRT 分析では 500 を基準として各生徒のスコアをそれぞれ算出しています。平均IRTスコアは、算出された各生徒のスコアを足し合わせて平均をとったものであるため、500 に一致するとは限りません。

(※２)理想的な正規分布(データが平均の付近に集積するような分布)となった場合、標準偏差は100となりますが、実際の各生徒のスコア状況により変動します。

IRTバンド全国結果

IRTバンド	1	2	3	4	5
IRTスコア換算(※3)	~341	342~448	449~556	557~663	664~
割合(%) (※4)	5.7	24.7	36.2	27.1	6.4

(※3)IRTバンドの区切り方は、生徒ごとに算出したIRTスコアを、等間隔に決められた幅に区切って設定しています。今回のIRTスコアの標準偏差108をバンド幅としており、2回目以降の英語でも、同じ基準を用いる予定です。

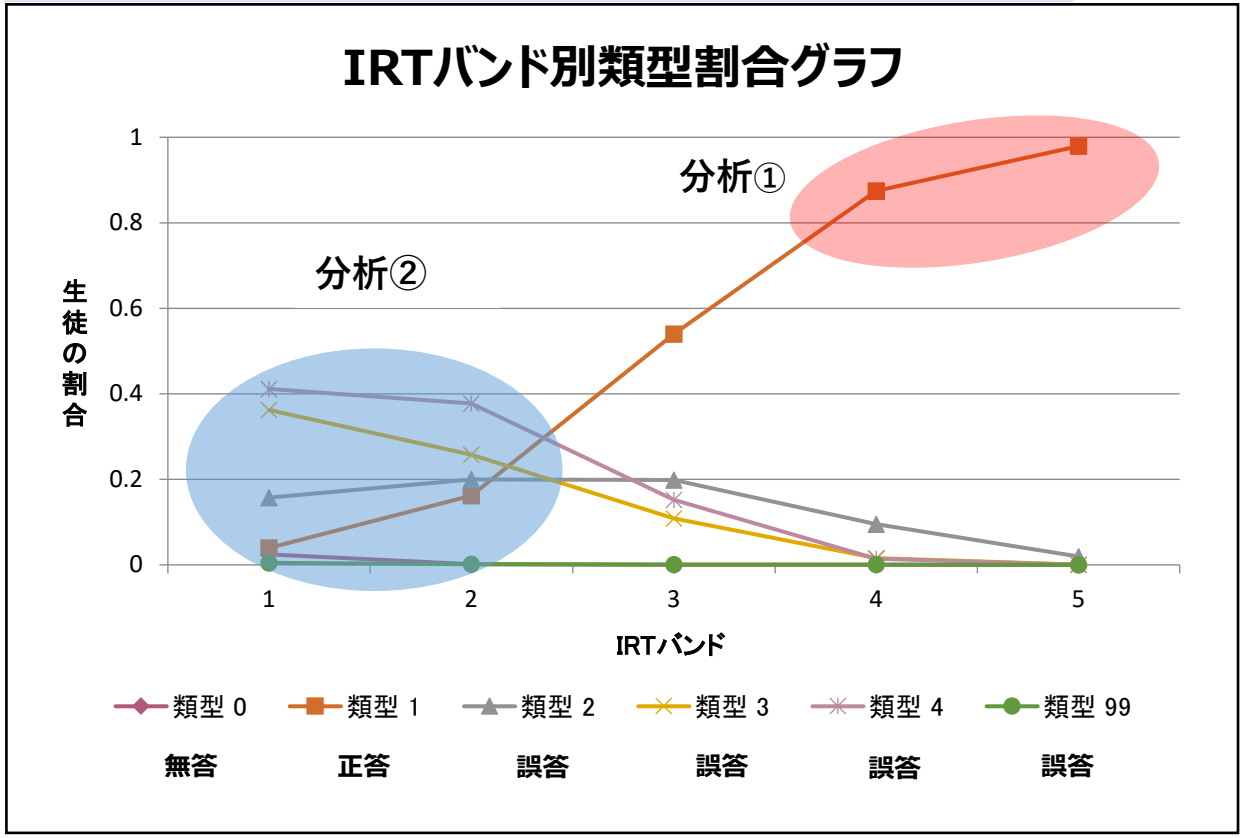
(※４)IRTバンドについて、理想的な正規分布となった場合、３が約40%、２・４が約23%、１・５が約７%となりますが、実際の各生徒のスコア状況により変動します。

IRTに基づく分析の結果

- 中学校英語ではIRT（Item Response Theory：項目反応理論）を活用して分析している。
- IRTバンドごとに解答状況に特徴が見られた問題については、「IRTバンド別類型割合グラフ」を用いて、IRTバンドごとに見られた特徴や、その特徴を踏まえた指導改善のポイントを示している。
- 「教育委員会や学校におけるIRTバンドの分布」と、「IRTバンド別類型割合グラフから読み取れるバンドの特徴や傾向」とを照らし合わせながら、学習指導の更なる充実に向けて活用されることが期待される。

※全国学力・学習状況調査結果に基づく「IRTバンド別類型割合グラフ（IRTバンドに基づいたG-P分析図）」では、横軸は受検者の学力レベル（5 段階の IRT バンド）を表し、縦軸は IRT バンドごとの各解答類型に属する生徒の割合を表しています。

全国学力・学習状況調査結果に基づくIRTバンド別類型割合グラフの例



分析①

IRTバンド４に属する生徒の約９割、IRTバンド５に属する生徒は約10割が正答している。

IRTバンドが高いほど正答する生徒の割合が増えており、IRTバンド４以上に属する生徒はおおむねこの問題を通して測っている資質・能力を身に付けていると判断することができる。

分析②

IRTバンド１、２に属する生徒は、正答する生徒の割合が２割に満たず、一定の生徒が類型２、３、４と誤答している。

誤答の類型２、３、４の内容を分析することで、IRTバンド１、２に属する生徒の課題を把握し、特に留意して指導すべき事柄がわかる。

結果のポイント ④

社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題がある。

具体的な設問例 10（２）

インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く。

10

中学生のまいこ(Maiko)が英語の授業でインターネットの使用に関する文章を書きました。次の(１)と(２)の問いに答えなさい。

（２） まいこの質問に対する「あなたの考え」と「なぜそう考えるのか」を、英語で書きなさい。【まいこが書いた文章】にある表現を使って書いてもかまいません。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.
Do you think my opinion is good?

＜解答欄＞ ※半角で入力してください
Do you think my opinion is good?
あなたの考え

なぜそう考えるのか

解答の分析

無解答率14.4%

正答の条件・正答例（正答率 **28.4%**）

条件①：
書き手の意見に対する自分の考えを書いている。

条件②：
①の理由を書いている。

・I agree with you. I often use the internet to study English.

解答類型		反応率（%）
1（正答）	条件①、条件②を満たして解答している	22.8
2（正答）	文法事項などに誤りがあるが、条件①、条件②を満たして解答している	5.5
3	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答している	35.4
4	条件①を満たして解答しているが、条件②に関わる記述がない	8.2
5	条件①を満たしていないが、条件②を満たしている	2.0
6	条件①に関わる記述はないが、条件②を満たしている	0.2
7	条件①、条件②を満たさない	9.6
99	上記以外の解答（日本語など）	2.0
0	無解答	14.4

解答類型３に該当する生徒は、自分の考え（条件①）を書くことはできているが、理由（条件②）を書くことができていない。

解答類型３の誤答例

・I think your opinion is good. I think students will find is very good. (文構造の誤り)

・I agree with you. I think paper dictionaries is more useful than internet. (内容の矛盾)

解答類型７に該当する生徒は、自分の考え（条件①）とその理由（条件②）を書くことができていない。書く内容が思い浮かばなかったか、書く内容は思い浮かんだが、自分の考えとその理由を書くために必要な表現が身に付いていないと考えられる。

解答類型７の誤答例

・I think should use to study good.

結果のポイント ④　社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題がある。

具体的な設問例 10（２）　インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く。

分析① IRTバンド１に属する生徒の約４割、IRTバンド２に属する生徒の約３割が無解答である。

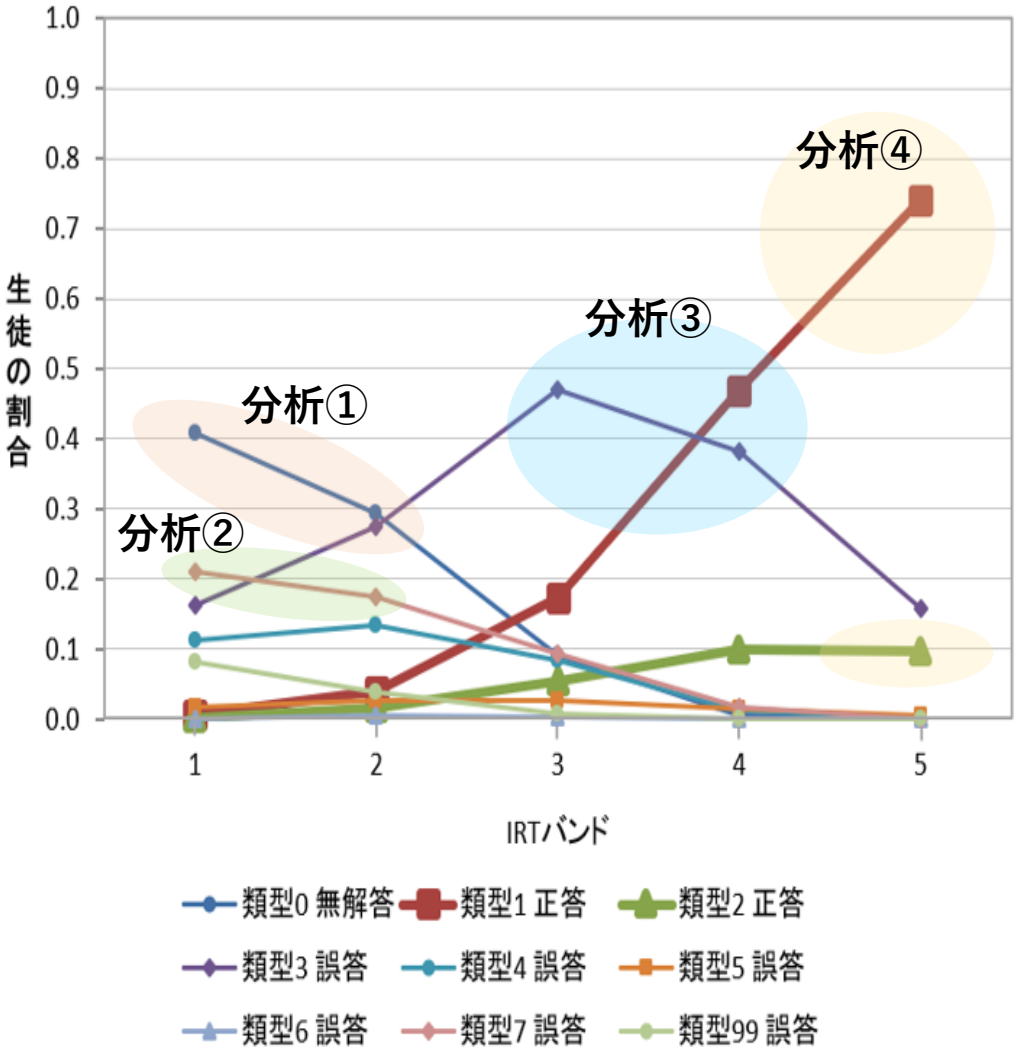
分析② IRTバンド１、２に属する生徒の約２割が、誤答である解答類型７に分類されている。

誤答や無解答の要因として、文章の内容が読み取れたのか、書くべき内容が分からなかったのか、英語の表現が分からなかったのか、生徒の課題がどこにあるのかを見取り、それぞれに応じた指導を行うことが大切である。
指導に当たっては、**書かれている文章の内容と問われていることを確認した上で、書き手の意見に対して考えたことをペアでやり取りさせるなどして書き手の意見に賛成か反対かなどの立場を明確にさせ、それを「自分の考え」として書くことから指導**していくことが考えられる。

分析③ IRTバンド３に属する生徒の４割以上、IRTバンド４に属する生徒の約４割が、誤答である解答類型３に分類されている。

このような生徒は、自分の考えを支える理由を書くことに課題があると考えられる。指導に当たっては、**読み手に伝わる表現で理由を書くことができるように生徒同士でコメントさせ合ったり、教師からのフィードバックを与えて表現を考えさせたりする**ことが考えられる。

分析④ IRTバンド５に属する生徒の８割以上が正答している。

☞ 「令和8年度【中学校英語】報告書」授業アイディア例３参照
https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/data/26meng_idea_10.pdf#page=11

G-P分析図